

マークをクリックするとそのページを見ることができます



発生動向総覧
P.2-6

< 第42週 >

感染性胃腸炎の定点当たり報告数は増加し、過去5年間の同時期と比較してやや多い / その他最新動向



注目すべき感染症

< 今週は該当記事はありません >



病原体情報
P.7-8

風疹ウイルス 2012年



速報
P.9-22

腸管出血性大腸菌感染症2011年 / 神戸市における風疹発生状況と脳炎患者からの風疹ウイルスの検出、2012年3～8月



海外感染症情報
P.23-26

コンゴ民主共和国でエボラ出血熱が発生しています / インフルエンザ



感染症の話
P.27

< 今週はお休みです >



読者のコーナー
< 今週は該当記事はありません >



グラフ総覧(42週)
P.28-33



42週のデータ
P.34-46



発生動向総覧

< 第42週コメント > 10月24日集計分

全数報告の感染症

注意: これは当該週に診断された報告症例の集計です。しかし、迅速に情報還元するために期日を決めて集計を行いますので、当該週に診断された症例の報告が集計の期日以降に届くこともあります。それらについては一部を除いて発生動向総覧では扱いませんが、翌週あるいはそれ以降に、巻末の表の累積数に加えられることになります。

感染経路、感染原因、感染地域については、確定あるいは推定として記載されていたものを示します。

1類感染症

報告なし

2類感染症

結核374例

3類感染症

細菌性赤痢7例 菌種: *S. flexneri*(B群)2例__感染地域: フィリピン1例、インド1例
S. sonnei(D群)5例__感染地域: 愛知県2例、東京都1例、インド2例

腸管出血性大腸菌感染症121例(有症者76例、うちHUS 1例)

感染地域: 国内120例、国内/ハワイ1例

国内の多い感染地域: 東京都21例*、岩手県8例、埼玉県8例、北海道7例、青森県6例**、宮城県6例、千葉県6例、熊本県6例、広島県5例、鹿児島県5例、秋田県4例、静岡県4例、長崎県4例

* 保育所における集団発生(O26 VT1)を含む

** 第40週に起きた幼稚園における集団発生(O157 VT2)

年齢群: 1歳(3例)、2歳(3例)、3歳(9例)、4歳(7例)、5歳(7例)、6歳(4例)、7歳(4例)、8歳(2例)、9歳(4例)、10代(20例)、20代(20例)、30代(11例)、40代(5例)、50代(4例)、60代(12例)、70代(4例)、80代(2例)

血清型・毒素型: O157 VT1・VT2(51例)、O26 VT1(22例)、O157 VT2(18例)、O157 VT1(6例)、O26 VT2(4例)、O103 VT1(3例)、O111 VT1・VT2(2例)、O26 VT1・VT2(1例)、O91 VT1(1例)、O111 VT1(1例)、O121 VT2(1例)、O126 VT1(1例)、O128 VT2(1例)、O145 VT1・VT2(1例)、O146 VT1(1例)、O157 VT不明(1例)、O165 VT1・VT2(1例)、その他・不明(5例)

累積報告数: 3,350例(有症者2,125例、うちHUS 82例、死亡8例)

腸チフス1例

感染地域: ミャンマー/ベトナム/タイ

4類感染症

A型肝炎4例

感染地域: 大阪府2例、ウズベキスタン1例、エジプト1例

チクングニア熱1例

感染地域: インドネシア

つつが虫病5例

感染地域: 福島県1例、石川県1例、山梨県1例、岐阜県1例、長崎県1例

デング熱5例 感染地域: インド2例、グアム1例、ケニア/アラブ首長国連邦1例、タイ/マレーシア/ラオス1例

日本紅斑熱5例 感染地域: 長崎県2例、熊本県2例、広島県1例

マラリア3例 三日熱1例__感染地域: インド
熱帯熱1例__感染地域: ガーナ/トーゴ/ベナン
Plasmodium knowlesi 1例__感染地域: マレーシア

レジオネラ症23例(肺炎型23例)
感染地域: 北海道3例、栃木県2例、兵庫県2例(うち1例温泉)、福岡県2例(うち1例温泉)、宮城県1例、群馬県1例、埼玉県1例、千葉県1例、新潟県1例、長野県1例(温泉)、静岡県1例、愛知県1例、島根県1例(温泉)、岡山県1例、香川県1例、国内(都道府県不明)2例、ドイツ1例
年齢群: 40代(1例)、50代(3例)、60代(7例)、70代(9例)、80代(2例)、90代(1例)

5類感染症

アメーバ赤痢6例(腸管アメーバ症5例、腸管外アメーバ症1例)
感染地域: 埼玉県1例、京都府1例、福岡県1例、国内(都道府県不明)3例
感染経路: 性的接触1例(異性間)、不明5例

ウイルス性肝炎2例 B型2例__感染経路: 性的接触2例(異性間2例)

急性脳炎2例 病原体不明2例__年齢群: 5歳(1例)、10代(1例)

クロイツフェルト・ヤコブ病2例
孤発性プリオン病古典型2例

後天性免疫不全症候群19例(AIDS 3例、無症候13例、その他3例)
感染地域: 国内16例、インドネシア1例、国内・国外不明2例
感染経路: 性的接触19例(異性間4例、同性間14例、異性/同性間1例)

ジアルジア症3例 感染地域: 国内(都道府県不明)1例、カザフスタン1例、シンガポール/ベトナム/マレーシア1例

先天性風しん症候群1例
感染地域: 兵庫県

梅毒8例(早期顕症II期5例、無症候3例)

破傷風1例 年齢群: 40代

バンコマイシン耐性腸球菌感染症1例
遺伝子型: *Van C*__菌検出検体: 胆汁

風しん35例(検査診断例22例、臨床診断例13例)
感染地域: 東京都9例、大阪府4例、兵庫県4例、神奈川県3例、宮城県2例、長野県1例、三重県1例、和歌山県1例、国内(都道府県不明)9例、ハワイ1例
年齢群: 10 ~ 14歳(2例)、15 ~ 19歳(9例)、20 ~ 24歳(6例)、25 ~ 29歳(7例)、30 ~ 34歳(1例)、35 ~ 39歳(2例)、40代(7例)、60代(1例)
累積報告数: 1,889例(検査診断例1,392例、臨床診断例497例)

麻疹3例〔麻疹(検査診断例1例)、修飾麻疹(検査診断例2例)〕

感染地域：東京都1例、愛知県1例、国内(都道府県不明)1例

年齢群：20 ~ 24歳(1例)、40代(1例)、60代(1例)

累積報告数：274例〔麻疹(検査診断例139例、臨床診断例67例)、修飾麻疹(検査診断例68例)〕

遺伝子型別累積報告数(遺伝子型が同定・報告された症例のみ): 64例

D4：6例__感染地域：東京都2例、千葉県1例、東京都/ベトナム1例、大阪府/英国1例、パキスタン1例

D8：43例__感染地域：愛知県19例、千葉県5例、宮崎県5例、岐阜県3例、山梨県2例、都道府県不明6例、タイ2例、タイ/カンボジア1例

D9：8例__感染地域：岡山県4例、栃木県1例、千葉県1例、東京都1例、フィリピン1例

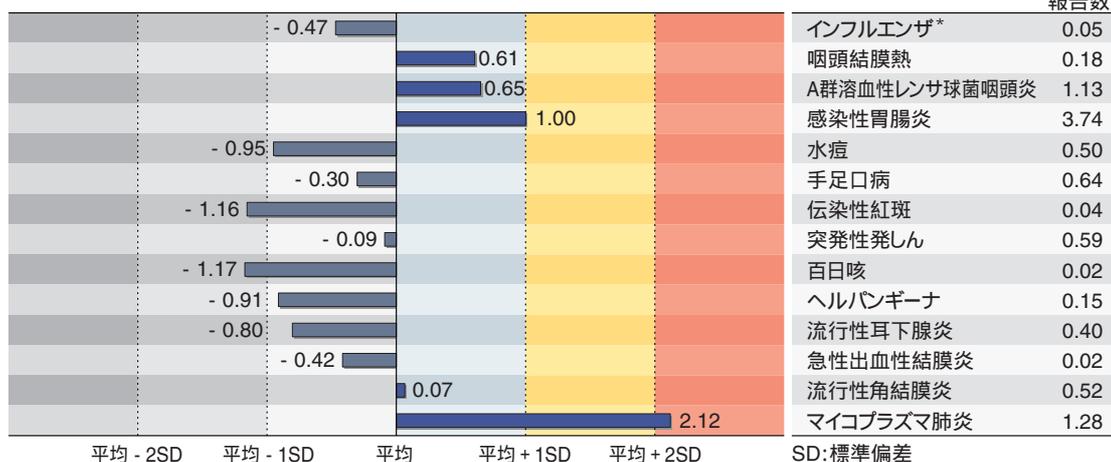
H1：7例__感染地域：福島県4例、東京都1例、中国1例、台湾1例

(補) 2012年第41週までに診断されたものの報告遅れとして、エキノコックス症1例(多包条虫__感染地域：北海道)、日本紅斑熱9例(感染地域：三重県7例、和歌山県2例)、急性脳炎4例(病原体不明4例__年齢群：2歳(1例)、4歳(1例)、5歳(1例)、6歳(1例))、劇症型溶血性レンサ球菌感染症4例(40代(1例 . 死亡)、50代(2例)、70代(1例 . 死亡))などの報告があった。

定点把握の対象となる5類感染症

全国の指定された医療機関(定点)から報告され、疾患により小児科定点(約3,000カ所)、インフルエンザ(小児科・内科)定点(約5,000カ所)、眼科定点(約600カ所)、基幹定点(約500カ所)に分かれています。また、定点当たり報告数は、報告数/定点医療機関数です。

定点把握疾患の報告の過去5年間の同時期との比較(第42週)



当該週と過去5年間の平均(過去5年間の前週、当該週、後週の合計15週の平均)との差をグラフ上に表現した。(* 2009年のパンデミックの影響を受けています。)

インフルエンザ

定点当たり報告数は第38週以降減少が続いている。都道府県別では沖縄県(1.81)、滋賀県(0.19)、岐阜県(0.17)が多い。

小児科定点報告疾患

RSウイルス感染症の報告数は3,757例と増加した。年齢別では1歳以下の報告数が全体の約75%を占めている。

咽頭結膜熱の定点当たり報告数は増加した。都道府県別では佐賀県(1.09)、宮崎県(0.64)、鹿児島県(0.51)が多い。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は増加した。都道府県別では山口県(2.96)、山形県(2.13)、北海道(2.06)が多い。

感染性胃腸炎の定点当たり報告数は増加し、過去5年間の同時期(前週、当該週、後週)と比較してやや多い。都道府県別では福岡県(7.43)、兵庫県(7.26)、沖縄県(6.97)が多い。

水痘の定点当たり報告数は減少した。都道府県別では山形県(1.27)、宮城県(1.00)、徳島県(1.00)が多い。

手足口病の定点当たり報告数は3週連続で減少した。都道府県別では秋田県(3.57)、岩手県(3.33)、宮崎県(3.33)が多い。

伝染性紅斑の定点当たり報告数は2週連続で減少した。都道府県別では岐阜県(0.21)、岩手県(0.20)、徳島県(0.17)が多い。

百日咳の定点当たり報告数は増加した。都道府県別では福井県(0.18)、沖縄県(0.12)、広島県(0.10)が多い。

ヘルパンギーナの定点当たり報告数は第35週以降減少が続いている。都道府県別では香川県(0.70)、秋田県(0.49)、愛媛県(0.46)が多い。

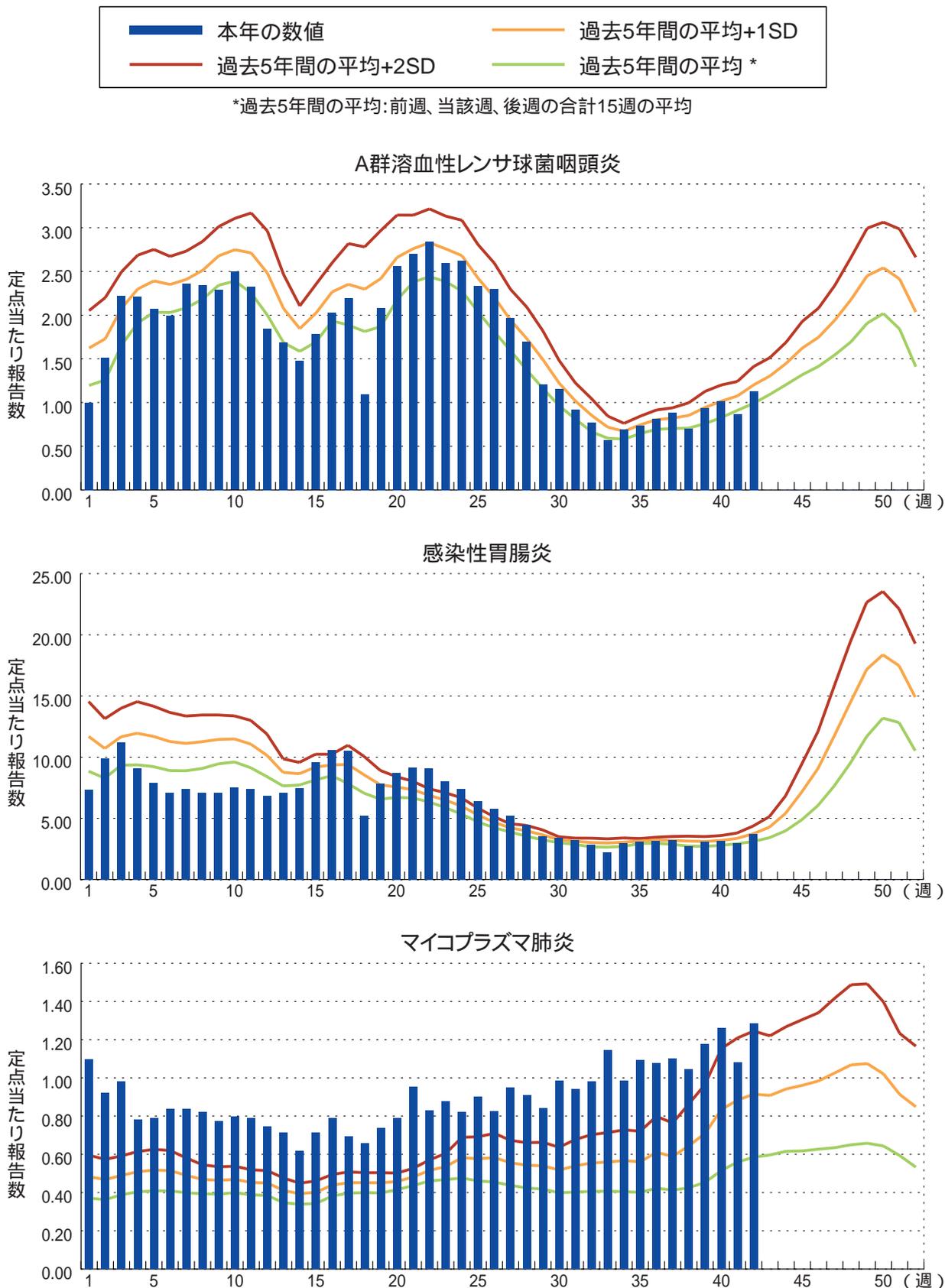
流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は増加した。都道府県別では大分県(2.53)、岩手県(1.60)、山形県(1.47)が多い。

基幹定点報告疾患

マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は増加し、過去5年間の同時期と比較してかなり多い。都道府県別では群馬県(5.13)、青森県(4.50)、栃木県(3.57)、岩手県(3.21)が多い。

図. 主要定点把握疾患の過去5年間との週別比較(2012年第42週)

青のバーで示す本年の定点当たり報告数が赤のラインを超えているときには、過去5年間の週と比較してかなり多いことを示す。





病原体情報

* グラフはIASRホームページ(<http://www.nih.go.jp/niid/ja/iasr.html>)からの引用です。

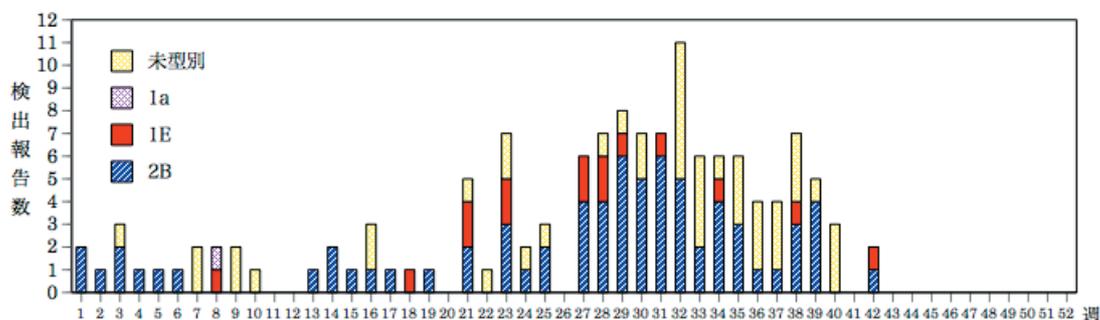
国立感染症研究所・感染症情報センターには各都道府県市の地方衛生研究所(地研)から「病原体個票」と「集団発生病原体票」が報告されています。これには感染症発生動向調査の定点およびその他の医療機関、保健所等で採取された検体から検出された病原体の情報が含まれています。週別の報告数は、病原体が分離・検出された検体の採取日による週ごとの報告数です。地域別の報告数は、その地域に所在する地研からの総報告数を都道府県別に示しています。

(2012年10月25日現在報告分)

風疹ウイルス 2012年

週別風疹ウイルス分離・検出報告数、2012年

(病原微生物検出情報：2012年10月25日現在報告数)



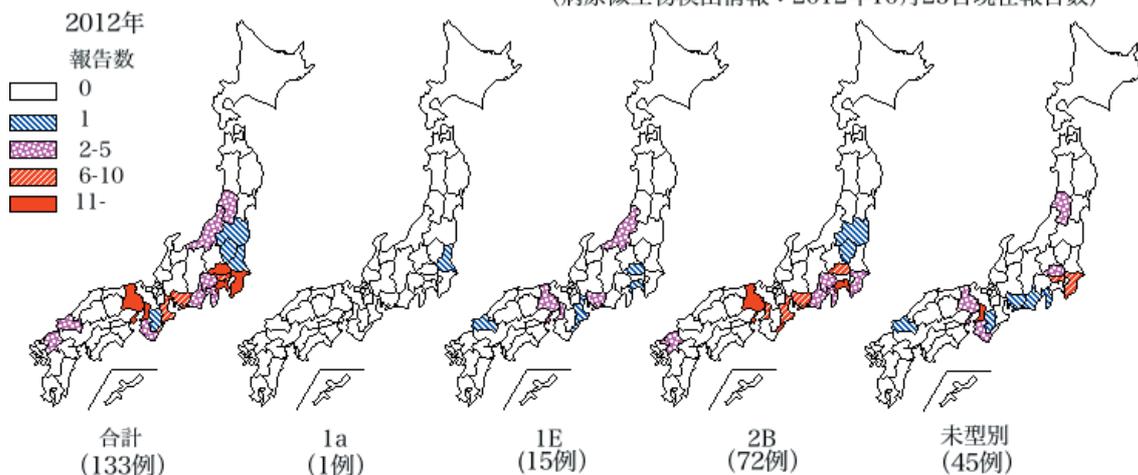
* 各都道府県市の地方衛生研究所からの分離/検出報告を図に示した



2012年初めから風疹ウイルスの分離・検出報告が続き、第21週(5月)以降増加している。

都道府県別風疹ウイルス分離・検出報告状況、2012年

(病原微生物検出情報：2012年10月25日現在報告数)



* 各都道府県市の地方衛生研究所からの分離/検出報告を図に示した



2012年第1～42週(10月)までに大阪府29件、兵庫県19件、神奈川県17件、千葉県12件、埼玉県11件、愛知県10件、三重県7件、東京都6件など19都府県から133件の風疹ウイルスの分離・検出が報告されている。

遺伝子型別まで実施された88件では、2B型が72件ともっとも多く、1E型が15件で、1a型1件はMRワクチン接種者から検出されている。

麻疹疑い例の検査診断で、麻疹ウイルスが検出されず、風疹ウイルスが検出された例も多く含まれている(本号20ページ「速報」参照)。また、急性脳炎患者(本号20ページ「速報」参照)と先天性風疹症候群患者各1例から2B型が検出されている。

風疹ウイルス型検出速報グラフは

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/iasr/510-surveillance/iasr/graphs/2293-iasrgv4.html>
を参照ください。

風疹ウイルス型検出速報集計表は

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/iasr/511-surveillance/iasr/tables/1493-iasr-table-v.html>
のインフルエンザ&呼吸器ウイルス(麻疹他)を参照ください。



腸管出血性大腸菌感染症 2011年 (2012年9月30日現在)

腸管出血性大腸菌感染症は、感染症法に基づく3類感染症として、無症状病原体保有者を含む症例の報告が診断した全ての医師に義務づけられている。無症状病原体保有者は、食品産業従事者の検便によって偶然発見される場合もあるが、探知された患者と食事を共にした者や、接触者の調査などによって発見される場合が多い。腸管出血性大腸菌感染症の報告は1996年8月6日に伝染病予防法のもとで指定伝染病に規定された時に始まっているが、以下においては、1999年4月の感染症法施行以降の報告の範囲で記述する。

年次推移(図1)

2011年の年間報告数(診断週が2011年第1 ~ 52週のもので、2012年9月30日までに報告されたもの)は3,940例であった。2000 ~ 2010年の年間累積報告数(2000年3,648例、2001年4,435例、2002年3,183例、2003年2,999例、2004年3,764例、2005年3,589例、2006年3,922例、2007年4,617例、2008年4,321例、2009年3,889例、2010年4,134例)と比較すると、2007年、2001年、2008年、2010年に次いで5番目に多かった。3,940例のうち有症状者は2,658例であり、67.5%を占めた。

図1-1. 腸管出血性大腸菌感染症の年別・症状別発生状況(1999年4月 ~ 2011年)

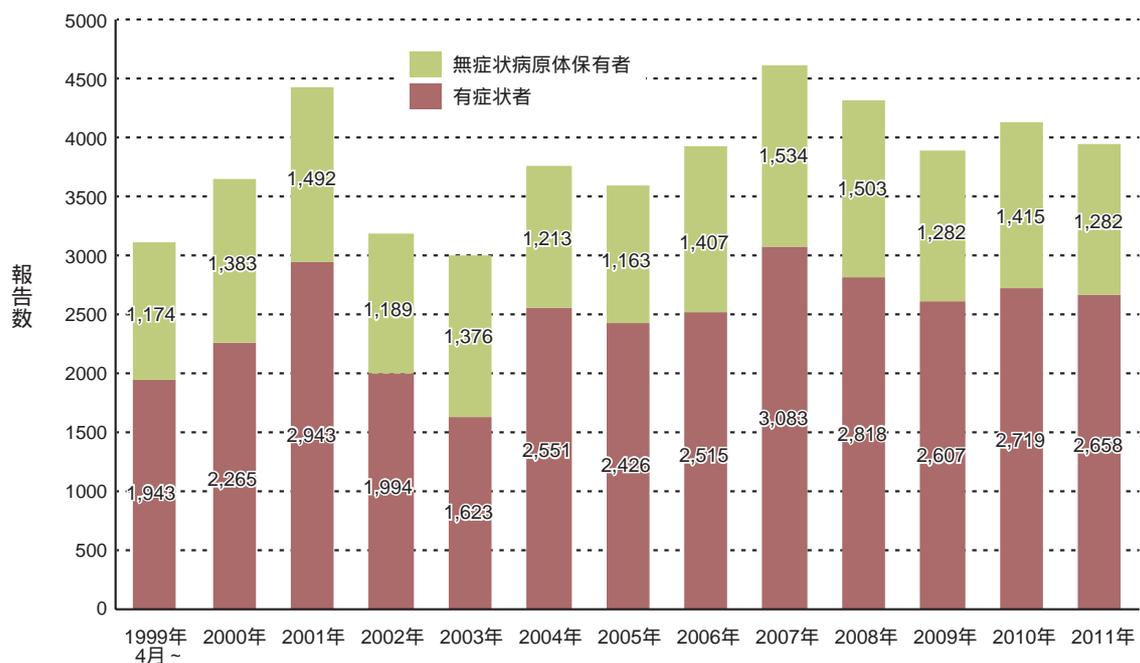
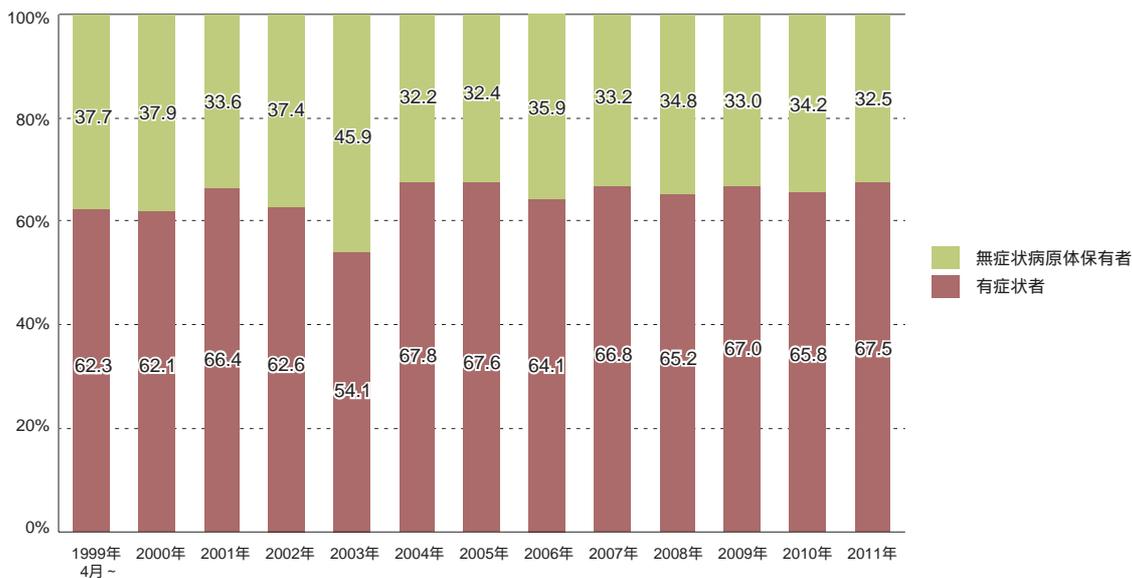


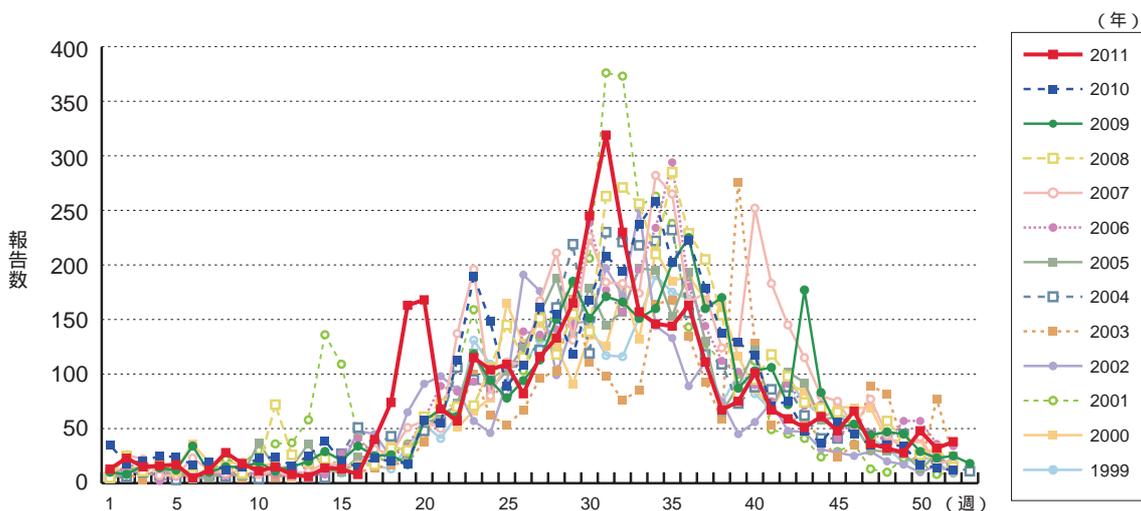
図1-2. 腸管出血性大腸菌感染症の年別・有症状者割合(1999年4月 ~ 2011年)



週別推移(季節性) (図2)

例年、7月中旬から9月中旬にかけて報告数の増加がみられるが、2011年は4月下旬から5月にかけて(第17 ~ 21週) 富山県を中心とした焼肉チェーン店における食中毒と山形県の菓子製造業施設における食中毒が発生し、一時的に報告数の増加がみられた。その後漸増が続いたが、第29週以降急増し、第31週(8/1 ~ 7)に319例と最大のピークを迎え、以後減少した。一週間の報告数が300例を超えたのは、2001年以来10年ぶりであった。

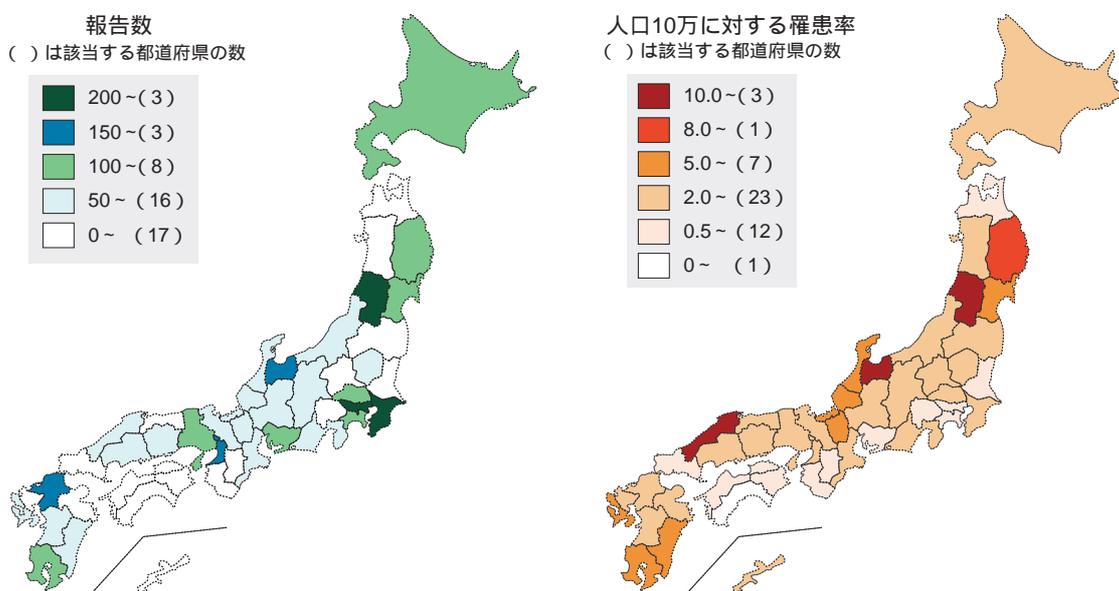
図2. 腸管出血性大腸菌感染症の年別・週別発生状況(1999年第14週 ~ 2011年)



都道府県(報告地であり、必ずしも感染した都道府県を示すものではない) 図3)

都道府県別にみると、山形県(308例)、東京都(257例)、千葉県(205例)、福岡県(198例)、富山県(193例)、大阪府(185例)、埼玉県(146例)、北海道(140例)の順に多く、14の都道府県で年間累積報告数が100例を超えた。人口10万人当たりの罹患率でみると、山形県(26.5 : 報告数308例)、富山県(17.7 : 報告数193例)、島根県(10.7 : 報告数76例)、岩手県(9.6 : 報告数126例)、福井県(7.0 : 報告数56例)の順に高かった。

図3. 腸管出血性大腸菌感染症の都道府県別報告数と罹患率(2011年)
「総務省統計局推計人口(2012年4月17日公表データ) 使用」



感染地域(確定または推定として報告されている)

感染地域を国内とするものが3,893例(98.8%)、国外とするものが43例(1.1%)、不明が4例(0.1%)であった。

国内の感染地域詳細として3,893例について内訳をみると、山形県(316例)、千葉県(180例)、福岡県(179例)、富山県(174例)、東京都(171例)、北海道(144例)、大阪府(140例)が多かった。国内感染での比較的大きな集団発生事例としては、山形県の菓子製造施設で起きた食中毒(189例 : 第18 ~ 21週)¹⁾、富山県の焼肉チェーン店食中毒(181例 : 第17 ~ 23週)²⁾、島根県の社会福祉施設関連(52例 : 第19 ~ 27週)³⁾、千葉県の保育施設関連(40例 : 第22 ~ 24週)、長崎県の保育施設関連(40例 : 第28 ~ 29週)⁴⁾などがあった。

国外の感染国の内訳は、韓国22例、中国6例、インドネシア5例、タイ、ハワイ各2例、フランス、ドイツ、メキシコ、ペルー、米国(本土)メキシコ、ピトケアン島(英国領)各1例であった。

性・年齢(図4、図5)

性別では男性1,771例(うち有症状者1,229例、69.4%)、女性2,169例(うち有症状者1,429例、65.9%)で、年齢は0 ~ 103歳(中央値23歳)であった。年齢群別にみると、10歳未満1,226例(0 ~ 4歳726例、5 ~ 9歳500例)、10代584例、20代522例、30代432例、40代261例、50代276例、60代271例、70代184例、80代152例、90代以上32例であった。20歳未満では男性がやや多いが、20歳以上では女性が多くなっており、年齢中央値は男性18歳、女性27.5歳で従来と同様の性差が認められた(例、2010年男性17歳、女性24歳)。症状別でみると、男性では40代で、女性では30代と50代で無症状病原体保有者が多かった。有症状者の占める割合は10代82.5%、70代以上76.6%、10歳未満75.2%、20代65.7%、60代57.9%の順に大きかった。

図4. 腸管出血性大腸菌感染症の年齢群別割合(2011年)

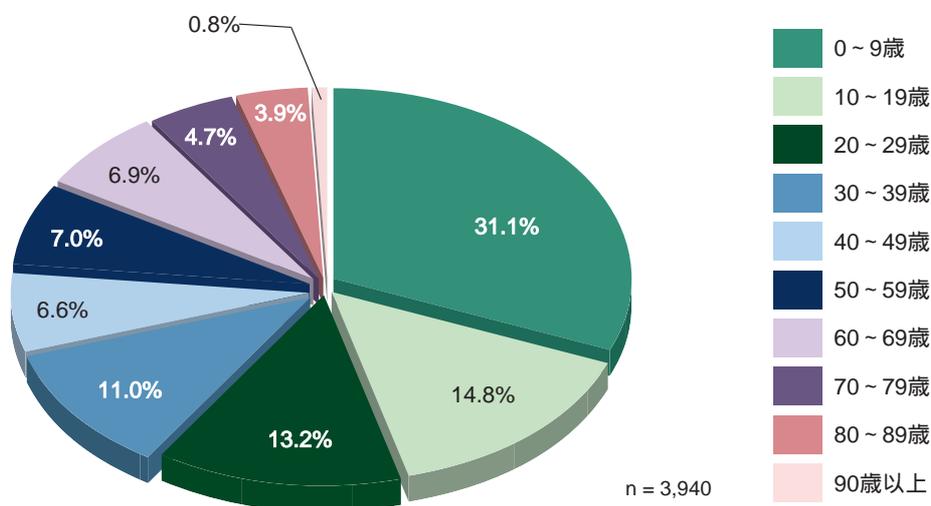
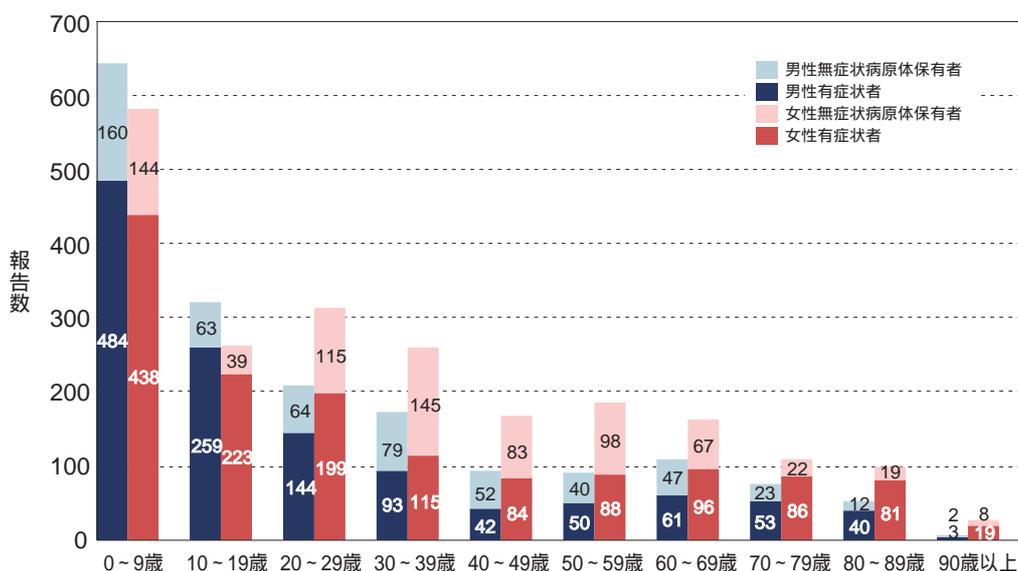


図5. 腸管出血性大腸菌の性別・年齢群別・症状の有無別報告数(2011年)



感染経路・感染源(確定または推定として報告されている)

3,940例の感染経路は、経口感染1,701例(43.2%)、接触感染723例(18.4%)、経口または接触感染136例(3.5%)、動物・蚊・昆虫等(以下動物等)からの感染11例(0.3%)、経口または動物等からの感染5例(0.1%)、経口または接触または動物等からの感染3例(0.1%)、接触または動物等からの感染2例(0.1%)、その他9例(0.2%)、不明・記載なしが1,350例(34.3%)であった。その他としては、職場の定期検便・健康診断7例などが報告されていた。

経口感染とされた1,845例(複数の感染経路での報告を含む)のうち、肉類の喫食が記載されていたものは500例あった。500例のうち、208例は生肉(加熱不十分の肉を含む)を喫食しており、その種類としてユッケが103例で多く、次いで生レバー・レバ刺しが78例と多かった。

O血清群・毒素型(表1)

3,940例のO血清群は、O157 2,250例(57.1%)、O26 803例(20.4%)、O145 187例(4.7%)、O103 127例(3.2%)、O111 112例(2.8%)、O121 54例(1.4%)の順に多く、O157、O26に次いで昨年はO103が多かったが、本年はO145が3番目に多い血清群であった。毒素型も加えると、O157 VT1・VT2 1,570例(うち有症状者75.0%)、O26 VT1 658例(うち有症状者54.6%)、O157 VT2 494例(うち有症状者68.6%)の順であり、例年と比較するとO157 VT2の減少が目立った。

集団発生事例は、山形県の菓子製造業施設(O157)や富山県を中心とした焼肉チェーン店(O111&O157)での食中毒、保育施設や高齢者福祉施設での集団感染など、10例以上の感染者(無症状病原体保有者を含む)が報告されたものが18事例あった⁴⁾。この他にも感染原因は不明であるが、菌株の分子疫学的解析により、パルスフィールド・ゲル電気泳動(PFGE)パターンがほぼ同一であるO157が複数の自治体から広域にわたり分離された広域感染事例⁵⁾も報告されている。

表1. 腸管出血性大腸菌感染症の報告症例における原因菌の血清群と毒素型(2011年)

O血清群	毒素型	有症状者 (国外感染再掲)	無症状病原体保有者 (国外感染再掲)	合計 (国外感染再掲)
O157	VT1	79 (1)	24 (2)	103 (3)
	VT2	339 (4)	155 (1)	494 (5)
	VT1・VT2	1,177 (12)	393 (3)	1,570 (15)
	VT不明	81	2	83
	小計	1,676 (17)	574 (6)	2,250 (23)
O26	VT1	359 (10)	299 (2)	658 (12)
	VT2	1	0	1
	VT1・VT2	76	53	129
	VT不明	9	6	15
	小計	445 (10)	358 (2)	803 (12)
O145	VT1	42	56	98
	VT2	60 (1)	20	80 (1)
	VT1・VT2	6	1	7
	VT不明	2	0	2
	小計	110 (1)	77	187 (1)
O103	VT1	63	57 (1)	120 (1)
	VT1・VT2	3	1	4
	VT不明	3	0	3
	小計	69	58 (1)	127 (1)
	O111	VT1	33 (2)	10
VT2		29 (1)	5	34 (1)
VT1・VT2		26	6	32
VT不明		3	0	3
小計		91 (3)	21	112 (3)

O121	VT2	36	15	51	
	VT不明	3	0	3	
	小計	39	15	54	
O91	VT1	5	31	36	
	VT不明	1 (1)	0	1 (1)	
	小計	6 (1)	31	37 (1)	
O165	VT2	6	0	6	
	VT1・VT2	8	1	9	
	小計	14	1	15	
その他	O1 VT2	1	0	1	
	O5 VT1	10	0	10	
	O6 VT2	1	1	2	
	O8 VT1	0	1	1	
	O8 VT2	0	1	1	
	O15 VT1・VT2	1	0	1	
	O15 VT2	0	1	1	
	O18 VT2	2	1	3	
	O18 VT1・VT2	0	1	1	
	O20 VT1・VT2	0	1	1	
	O28 VT2	0	1	1	
	O28ac VT1・VT2	0	1	1	
	O55 VT1	4	6	10	
	O63 VT2	1	0	1	
	O74 VT2	1	4	5	
	O76 VT1	0	2	2	
	O78 VT1	0	2	2	
	O86a VT1	0	1	1	
	O86a VT2	1	0	1	
	O100 VT2	0	1	1	
	O115 VT1	1	5	6	
	O119 VT1	0	2	2	
	O119 VT2	0	1	1	
	O124 VT1	2	0	2	
	O124 VT2	0	1	1	
	O125 VT2	0	1	1	
	O128 VT1	2	0	2	
	O128 VT2	1	1	2	
	O136 VT1	0	2	2	
	O146 VT2	0	5	5	
	O152 VT1・VT2	0	1	1	
	O174 VT1	0	1	1	
	O179 VT2	0	1	1	
	O186 VT1	0	1	1	
	OUT VT1	12	5	17	
	OUT VT2	10	2	12	
不明 VT1	25 (1)	40	65 (1)		
不明 VT2	12	25	37		
不明 VT1・VT2	31	21	52		
不明 VT不明	14 (1)	1	15 (1)		
小計		132 (2)	141	273 (2)	
複数検出	O157 VT1・VT2 + O157 VT1	9	2	11	
	O157 VT1・VT2 + O111 VT2	7	1	8	
	O157 VT1・VT2 + O145 VT2	6	0	6	
	O157 VT1・VT2 + O157 VT1 + O111 VT2	3	0	3	
	O157 VT1・VT2 + O157 VT2	3	0	3	
	O103 VT1 + O145 VT1	3	0	3	
	O121 VT2 + O145 VT1	2	0	2	
	O157 VT1 + O111 VT2	1	0	1	
	O103 VT1 + O121 VT2	0	1	1	
	O5 VT1 + O145 VT2	1	0	1	
	O145 VT2 + O26 VT不明	0	1	1	
	O167 VT1 + O不明VT1	0	1	1	
	小計		35	6	41
	菌不分離	血清診断	41	0	41
小計		41	0	41	
総計		2,658 (34)	1,282 (9)	3,940 (43)	

重症例・死亡例(図6、表2、表3)

2006年の4月(第13週 ~)から溶血性尿毒症症候群(HUS)発症例に限り、菌が分離されなくても、便からのVero毒素(VT)検出、あるいは血清におけるO抗原凝集抗体または抗VT抗体検出によって診断されたものが、届出の対象となった。同時に届出様式が変更され、それまで任意記載であった臨床症状の報告は、主な症状が選択式となり、急性腎不全、痙攣、昏睡、脳症などが選択項目となり、これらの症状も把握されやすくなった。

HUSは105例が報告され、有症状者の4.0%が発症していた。2006 ~ 2010年の年間報告数(102、129、94、83、92例)および有症状者での発症率(4.1、4.2、3.3、3.2、3.4%)と比較し、報告数は2007年に次いで多く、発症率は2007、2006年に次いで3番目に高かった。性別では男性35例、女性70例であった。年齢は1 ~ 96歳(中央値14歳)で、年齢群別では15 ~ 64歳が38例(有症状者の3.4%)と最も多く、0 ~ 4歳が26例(同4.7%)、5 ~ 9歳22例(同5.9%)、65歳以上12例(同3.5%)、10 ~ 14歳7例(同2.6%)であった。例年、HUS発症例は10歳未満の小児に多くみられていたが、富山県を中心とした焼肉チェーン店での食中毒における患者発生状況が影響し、15 ~ 64歳の報告数と発症率が増加し、一方で0 ~ 4歳の報告数と発症率が減少した。HUS発症例の診断方法は、菌分離が64例(61.0%)、菌は分離されなかったが血清でのO抗原凝集抗体検出が41例(39.0%)で、便から直接のVT検出はなかった。菌が分離された64例の血清群・毒素型をみると、O157 VT1・VT2 32例、O157 VT2 12例などO157が計44例で全体の77.2%(複数菌検出例を除く)を占め、他にO111 VT2が9例、O26 VT2が1例、O26 VT1・VT2が1例、O121 VT2が1例、O145 VT2が1例で、それ以外に複数菌として、O157 VT1・VT2とO111 VT2が4例、O157 VT1・VT2とO157 VT1とO111 VT2が2例、O157 VT1とO111 VT2が1例であった。また、O抗原凝集抗体の検出により診断された41例の内訳は、O157が22例、O111が16例、O121、O145、O165が各1例であった。HUSを発症した105例中19例(0 ~ 4歳3例、5 ~ 9歳3例、10 ~ 14歳3例、15 ~ 64歳8例、65歳以上2例)では脳症も報告されており、他にHUS未発症で脳症発症が報告されていた患者も2例(80代男性O157 VT2、80代女性O157 VT1・VT2)もいた。

死亡例の把握は届出時点で記載されていたか、または届出後に任意に追加報告されたものに限られるが、17例(うち焼肉チェーンでの食中毒患者5例を含む)みられており、年齢群別内訳は0 ~ 4歳1例、5 ~ 9歳2例、10 ~ 14歳1例、15 ~ 64歳2例、65歳以上11例、診断方法別では菌分離15例(O157 VT1・VT2 9例、O111 VT2 3例、O145 VT2 1例、O157 VT2 1例、O157 VT不明 1例)、血清でのO抗原凝集抗体検出が2例(いずれもO111)であった。死亡のうち11例でHUS発症が報告された。報告されたHUS発症例(105例)の致死率は10.5%であった。

なお、HUSの合併や死亡の報告については、届出時点以降での発生が十分反映されていない可能性があるため、このような発生があった場合には報告の追加、修正をお願いしている。

図6. 腸管出血性大腸菌感染症のHUS発症例の性別・年齢群別報告数(2011年)

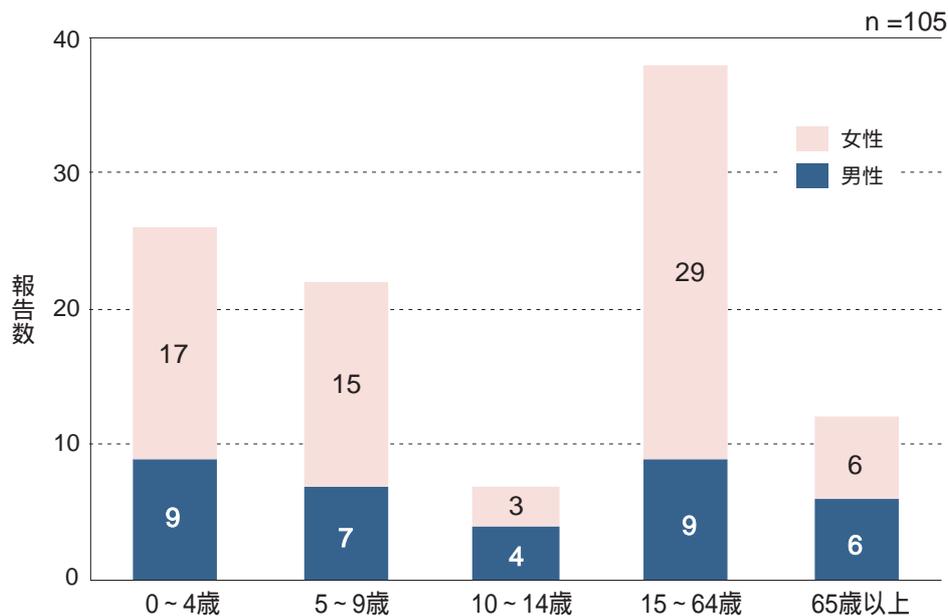


表2. 腸管出血性大腸菌感染症のHUS発症例の年齢群別報告数と有症状者に占める割合(2011年)

2011年			
年齢群	HUS	有症状者	HUS/有症状者 (%)
0~4歳	26	552	4.7%
5~9歳	22	370	5.9%
10~14歳	7	270	2.6%
15~64歳	38	1,121	3.4%
65歳以上	12	345	3.5%
総計	105	2,658	4.0%

表3. 腸管出血性大腸菌感染症のHUS発症例における
分離菌の血清群と毒素型(2011年)

() 内は死亡例を再掲

O血清群		毒素型	HUS発症例
O157		VT2	12
		VT1・VT2	32 (5)
小計			44 (5)
O111		VT2	9 (3)
小計			9 (3)
O26		VT2	1
		VT1・VT2	1
小計			2
その他	O121	VT2	1
	O145	VT2	1 (1)
小計			2 (1)
複数菌検出	O157 VT1・VT2 + O111 VT2		4
	O157 VT1・VT2 + O157 VT1 + O111 VT2		2
	O157 VT1 + O111 VT2		1
小計			7
総計			64 (9)

< 参考 > 菌分離以外の診断によるHUS報告症例

血清でのO抗原凝集抗体	41 (2)
[うちO157LPS抗体陽性]	[22]
[うちO111LPS抗体陽性]	[16] (2)
[うちO121LPS抗体陽性]	[1]
[うちO145LPS抗体陽性]	[1]
[うちO165LPS抗体陽性]	[1]

2011年のまとめ

感染症法施行以降の年間累積報告数を2000年以降の12年間でみると、2011年は2007年、2001年、2008年、2010年に次ぐ5番目の報告数であった。2011年は4～5月にかけて富山県を中心とした焼肉チェーン店での食中毒(O111&O157)により、5例が死亡、34例のHUS発症が報告された。また、ほぼ同時期に山形県の菓子製造施設を原因施設として、患者147例の大規模食中毒(O157)が発生し、1例の死亡が報告された。さらに、保育施設・幼稚園での集団感染事例も、従来と変わらず各地で発生がみられた。その他にも、菌株の分子疫学解析では、関連は不明であるが7～8月にかけて同一PFGEパターンを有するO157菌株が、九州から東北地方にわたって複数分離されていた。

感染経路や感染源の推定・確定は、本症の潜伏期間が2～14日と比較的長いこともあり、不明瞭なことも多いが、近年生肉や生レバーが感染源と見られる届出も多く認められていた。しかし、前述した焼肉チェーン店での食中毒の原因食品がユッケ(牛肉の生食料理)であったことから、食品衛生法の罰則を伴う新しい生食用食肉の規格基準が2011年10月1日から施行された。さらに、2012年7月1日より、牛肝臓(レバー)の規格基準が改正され、牛肝臓を生食用として提供・販売することが禁止となった。

HUS発症例は105例で、HUS発症者の届出基準が改正された2006年以降の過去5年の報告数と比べると2007年に次いで多かった。死亡の報告数は17例(1999年1例、2000年2例、2001年4例、2002年4例、2003年2例、2004年5例、2005年10例、2006年3例、2007年4例、2008年8例、2009年3例、2010年5例)であり、1999年4月の感染症法施行後で最も多かった。HUSなどの重症例や死亡例は、これまで小児や高齢者において多くみられていたが、2011年は15～64歳の成人における報告数と発症率の増加が目立った。これは、おもにユッケを推定原因食品とした焼肉チェーンでの食中毒で、HUSを発症した34例中23例が15～64歳の成人であったことが大きく影響している。その一方で、例年HUS発症例の半数近くを占めていた0～4歳の報告数と発症率が減少した。感染源・感染経路として、105例中38例(36.2%)で生肉(ユッケ、レバー、牛刺し、加熱不十分な肉等)の喫食が記載されており、38例中12例は小児(15歳未満)で、うち2例は5歳未満(1歳、2歳)であった。

腸管出血性大腸菌感染症の予防として、食品の取り扱いには十分注意して、食中毒の発生予防を徹底するとともに、手洗いの励行などにより、ヒトからヒトへの二次感染を予防することが大切である。特に小児、高齢者や抵抗力の弱い者などでは、肉・レバーなどはよく加熱し、生食は控える必要がある。最近では自治体をまたいだ食中毒を含む広域発生事例も散見されている。食材・食品の流通という観点も併せ、速やかな探知とそれに続く迅速な事例調査、さらに関連自治体間の連携は、本疾患の対策上今後ますます重要と考える。また、保育園や幼稚園などの保育施設での集団感染事例があとを絶たない。1人では手指衛生を十分に行えない乳幼児が集団生活を営む保育施設では特に、感染症発生の早期探知と二次感染予防を含めた拡大防止策の徹底が重要である。

2012年暫定報告数(2012年10月24日現在)

報告数は3,350例で、うちHUS発症例は82例、死亡8例である。

参照 : 病原微生物検出情報IASR

1) Vol.32 p296-297.2011

2) Vol.33 p119-120.2012

3) Vol.33 p125-126.2012

4) Vol.33 p116. 2012

5) Vol.33 p127-128. 2012

神戸市における風疹発生状況と脳炎患者からの風疹ウイルスの検出、2012年3～8月

はじめに

神戸市の2011年の風疹患者発生届出数は2名(IgM抗体による検査診断)であったが、2012年3月以降増加し始め、8月31日までに54名(男性39名、女性15名)の発生が届けられた。届出は20～50代の男性が63%を占めており、ワクチン未接種者かつ未感染者が多いと考えられる年代の男性層に集中しており、20代男性の脳炎合併症例もみられた。

検査診断

1) 材料と方法

神戸市環境保健研究所では3月以降、風疹および風疹疑い患者27名、麻疹疑い患者9名、脳炎患者1名の検体から風疹ウイルスの検出を試みた。遺伝子検査は、咽頭ぬぐい液、血漿、尿からRNAを抽出し、感染研より推奨されたNS領域またはE1蛋白質領域を対象としたnested RT-PCR法を実施した。

また、風疹ウイルス遺伝子が検出できた咽頭ぬぐい液はVero E6に接種し、ウイルス分離を実施した。分離培養液はイーグルMEM 100mlにMEM vitamins solution(×100)を4ml、トリプシン(1mg/ml)を0.2ml、10%glucoseを2ml添加したものを使用した。約1週間培養後、培養液を回収した。

型別はE1領域の739bpについてダイレクトシーケンスを行い、標準株を使用して近隣結合法による系統解析(ClustalW)を行い決定した。NS領域の増幅が確認されながらもE1領域での型別ができないものは分離ウイルスを使用して型別を実施した。

2) 結果

14名(男性9、女性5)から風疹ウイルスを検出した。ウイルス分離は遺伝子検出された検体のうち11検体(咽頭ぬぐい液)で実施した。ウイルス分離中に顆粒状の円形細胞が出現した検体もあったが、円形細胞が顕著に増えることがなく途中で消失するものもあり、著明なCPEの出現はなかった。接種約1週間後に回収した培養上清の抽出RNA液を 10^{-1} ～ 10^{-6} 階乗希釈し、NS遺伝子のRT-PCR法による検出を実施したところ、first stepにおいて 10^{-5} ～ 10^{-6} 希釈までNS遺伝子が検出され、ウイルスが分離されたことを確認した。

風疹ウイルスが検出された患者の診断名は風疹(疑いも含む)10名、麻疹疑い3名、脳炎(詳しくは後述)1名であった。検出患者の年齢中央値は34.3歳であった。麻疹疑い患者3名の麻疹ウイルスの遺伝子検査およびウイルス分離の結果はともに陰性であった。なお、神戸市では2012年1～8月まで麻疹疑い患者14名について実施した遺伝子検査および分離による麻疹ウイルスの検出はゼロである。

14名中1名のみは発熱が無く、有熱者の平均体温は38.1℃であった。14名全員に発疹がみられた。リンパ節腫脹のあったものは12名で、頸部の腫脹がほとんどであったが、少数ながら耳介後部、顎下の腫脹もみられた。その他、関節痛・結膜炎(眼球発赤)・頭痛等の症状がみられた。ワクチン接種歴がある患者は1名のみで、無しが9名、不明が4名であった。

検体から直接行ったRT-PCR法において、NS領域の増幅が見られた14名のうち11名においてE1蛋白質領域の739塩基を決定することができた。No.9、13は検体ではE1領域の一部しか増幅できず、またNo.7はE1領域が増幅できなかったため、分離したウイルス液を使用してE1蛋白質領

域を増幅し配列を決定した。No.7、9、13の接種1週間後の培養上清の抽出RNAは 10^{-4} ～ 10^{-5} 希釈までE1領域の遺伝子が検出された。

系統解析の結果、遺伝子の型別はNo.6が1Eであったが、それ以外はすべて2Bであった。2Bの13株の遺伝子配列は99～100%の相同性があり、11株の配列は100%一致した。No.4はその他の配列と2塩基の同義置換があり、No.11はその他の配列と1塩基の非同義置換(Ile→Met)が存在した。検体から直接E1領域による遺伝子型が決定できなかったNo.7はワクチン既接種で、排出ウイルス量が他と比較して少なかった可能性が示唆された。

脳炎の症例

27歳男性、既往歴はアレルギー性鼻炎、常用薬無し。風疹ワクチン接種歴無し。2012年7月25日頃から発熱・咳・発疹が出現し、近医受診。両手・背中・腹部に水疱形成を伴わない赤い発疹を認めた。掻痒感無し。コプリック斑無し。眼脂無し。左頸部リンパ節腫脹あり。鎮咳薬、胃薬、解熱薬が処方された。この時の血液検査では風疹IgM陰性、麻疹IgM陰性であった。7月29日頃にはいったん皮疹は消退したが、37℃と微熱が続いていた。7月30日朝から嘔吐あり。同日21時頃、上肢中心にぴくぴく動くような震えがあり、座位が保持できず、救急搬送された。搬送時、意識レベルは呼びかけで開眼、痛み刺激で少し顔をしかめるが発語はほとんどみられなかった。また、1分程度の全身強直性痙攣が認められた。項部硬直あり。顔面に1mm未満程度の紅色皮疹が散在。両側下顎リンパ節、頸部リンパ節腫大あり。眼振を認めた。髄液検査では細胞数205/3 mm³(単核球142、多核球63)、蛋白141 mg/dlと、髄膜脳炎を示唆する所見を得た。頭部CT・MRI検査上、脳腫脹や出血等の異常無し。脳波検査では2-8Hz程度の全般性徐波を認めた。

7月31日よりステロイド大量療法を開始し、8月1日には意識レベル改善を認め、8月2日より食事摂取開始とした。経過良好であり、8月3日から後療法としてプレドニゾロン50 mg/日から内服開始。明らかな高次脳機能障害や四肢麻痺もなく、8月12日プレドニゾロン30 mg/日内服で自宅退院となった。

脳炎症例の風疹および麻疹検査

7月31日に血液と髄液、8月2日に髄液、8月3日に血液、咽頭ぬぐい液、尿が採取され、風疹ウイルスおよび麻疹ウイルスのRT-PCR法を実施した。7月31日採取の血漿はNS領域陽性・E1領域陰性、8月3日採取の咽頭ぬぐい液はNS領域およびE1領域ともに陽性であった。しかし8月3日採取の血漿と尿は陰性で、咽頭ぬぐい液は発症後遅くまで検出できる可能性が高いことが示唆された。また7月31日と8月2日採取の髄液はともに陰性であった。なお、麻疹ウイルスのRT-PCR法(血液はPBMCで実施)はすべて陰性だった。医療機関における7月31日(7病日目)採取検体の抗体検査(デンカ生研のEIAキットを使用)で風疹のIgM指数は8.45で陽性であった。しかしながら麻疹のIgM指数も3.3と陽性で、風疹罹患の場合も麻疹IgMが陽性となる症例があることが判明した。

まとめ

今年の国内での風疹流行は都市部を中心に関西地方から始まり関東に広がっている。国内流行中の遺伝子型は2Bと1Eがほとんどである。神戸市では今年の3月以降より、20～50代男性を中心に風疹の流行が見られた。神戸市で検出した風疹ウイルス(3～8月)の遺伝子型は2Bが93%を占め、1例(7%)のみが1Eであった。また、今回風疹ウイルスを検出した14名のうち3名は

当初麻疹の罹患を疑われていた。両疾患とも特徴的な症状が見られない場合も多く、検査診断が重要になってくる。今回風疹による脳炎において、風疹IgM抗体だけでなく麻疹IgM抗体も同時に陽性となる例が存在することが判明した。麻疹IgMは伝染性紅斑や突発性発疹の際も陽性となることが知られている。麻疹および風疹の排除に向けて確実な診断のためには、抗体検査ではなくウイルスを直接検出するRT-PCR法およびウイルス分離が一層重要となると考えられる。

謝辞：風疹ウイルス検出および遺伝子型別に関し、ご指導いただきました国立感染症研究所ウイルス第三部の森嘉生先生に深謝いたします。

参考文献

- 1) WHO, WER 80: 126-132, 2005
- 2) 病原体検出マニュアル 風疹：平成14年3月
- 3) IASR 32: 250-267, 2011

神戸市環境保健研究所 秋吉京子 須賀知子 森 愛
神戸市立医療センター中央市民病院 東田京子 吉村 元 春田恒和
神戸市保健所 黒川 学 竹内三津子

(IASR 2012年11月号掲載予定記事より抜粋、詳細は同号参照)



海外感染症情報

*関連の情報やさらに詳しい情報については、FORTHホームページ(<http://www.forth.go.jp/>)をご覧ください。

コンゴ民主共和国でエボラ出血熱が発生しています(更新9)

2012年10月26日 WHO(GAR)

2012年10月26日に公表されたWHOの情報によりますと、コンゴ民主共和国では、10月24日時点で、エボラ出血熱の患者52人(確定患者は35人、可能性の高い患者は17人)が報告されています。このうち、25人(確定患者は12人、可能性の高い患者は13人)が死亡しています。

患者は、オリエンタル(Orientale)州のオー・ウエレ(Haut Uélé)のイシロ(Isiro)とピアダーナ(Viadana)の2地域で報告されています。

保健省は、感染拡大を抑えるために、地域の保健当局や国際的な関係機関と連携して、積極的なサーベイランス、確定患者や可能性の高い患者の接触者調査、医療機関での感染予防・制御、医療機関での患者管理、物資調達、社会的動員、社会心理学的な支援の提供、人類学的な分析の実施を継続しています。

イシロの近隣地域ではサーベイランスが強化されています。イシロでは、医療従事者に対して、医療機関での基本的な感染予防法の訓練が行われています。また、GOARN(Global Outbreak Alert and Response Network)を通じて、カナダ公衆衛生庁が現地に検査施設を設立しました。

エボラウイルスに対する感染予防に関する情報提供や、地域住民の懸念を話し合うために、学校や教会で、社会的動員が実施されています。

インフルエンザ - 更新171

2012年10月26日 WHO

【要約】

- ・北半球の温帯地域の多くの国では、散発的なインフルエンザウイルスの検出は増加していると報告していますが、検出数は依然として低く、季節性の流行閾値を下回っています。米国では、新学年が始まってから、豚由来のインフルエンザA(H3N2)ウイルスに最近感染した患者は報告されていません。
- ・熱帯地域の数か国では、最近の数週間でインフルエンザの活発な伝播がみられています。アメリカ大陸では、ニカラグアとコスタリカで著しく、最近の数週間ではインフルエンザB型の検出頻度が高くなっています。アジアでは、スリランカ、ネパール、タイで著しく、インフルエンザB型よりもインフルエンザA(H1N1)pdm09の検出割合が若干高くなっています。
- ・サハラ以南のアフリカでは、西アフリカ(セネガルとコートジボワール)と中部アフリカ(カメルーン)でインフルエンザウイルスの検出数が増加したと報告されており、主にインフルエンザA(H3N2)が検出されています。
- ・南半球の温帯地域のほとんどの国では、インフルエンザはシーズンオフの水準です。

【北半球の温帯地域】

北半球の温帯地域の多くの国では、インフルエンザウイルスが散発的に検出され始めていますが、まだ持続した地域内伝播はなく、インフルエンザ様疾患(ILI)の季節性の流行閾値を下回っています。

米国では、前回の更新情報から、新たに豚由来のインフルエンザA(H3N2)ウイルスに感染した患者は報告されていません。最後に報告された患者の発症日は9月7日でした。さらに詳しい

情報は、CDCのホームページに掲載されています。

【熱帯地域】

・アメリカ大陸の熱帯地域

中米とカリブ海諸国の数か国では、最近の数週間はインフルエンザB型の伝播が活発ですが、全体的に減少しています。

エルサルバドル、コスタリカ、ニカラグアでは、最近の伝播の報告はインフルエンザB型で、インフルエンザA(H3N2)は少数です。これらの国での伝播は8月下旬にピークに達したようであり、それ以降は減少しています。パナマでのインフルエンザB型のピークは、この地域の他の国に比べて数週間先行しました。ホンジュラスでは、4月から5月にかけて、インフルエンザA(H1N1) pdm09の著明なピークがあり、インフルエンザB型の伝播はありませんでした。

カリブ海では、キューバとジャマイカで、今年の大変早い時期にピークに達した後、最近の数週間、インフルエンザB型の伝播が続いていると報告されています。キューバでは、最近の数週間、インフルエンザA(H1N1) pdm09ウイルスも少数検出されていると報告されています。

南米の熱帯地域では、インフルエンザの活動性は減少し続けています。伝播は数週前にピークに達した後に著しく減少し、現在は、ウイルスの検出数は低いと報告されています。この地域のインフルエンザの活動性は、3種類すべての型・亜型が関係していました。ボリビアは5月にピークを迎え、ほとんどすべてがインフルエンザA(H1N1) pdm09でしたが、同じ時期にピークを迎えたエクアドルでは、ほとんどすべてがインフルエンザB型でした。また、コロンビアでは、主にインフルエンザA(H3N2)の伝播が報告されました。ペルーのインフルエンザの伝播は、6月と7月にピークを迎え、最近主にインフルエンザB型が関係しています。ブラジルでは、ペルーと同時期に大きなピークを迎え、インフルエンザA(H1N1) pdm09とインフルエンザA(H3N2)が均一に混在していました。

・サハラ以南のアフリカ

西アフリカでは、セネガルとコートジボワールで、過去2週間から3週間、インフルエンザA(H3N2)の増加が報告されています。中部アフリカの極東部では、カメルーンで、8月下旬以降、インフルエンザA(H3N2)の伝播が増加しています。東アフリカでは、ケニアで、インフルエンザB型が低い水準で検出され続けており、それより少数ですが、インフルエンザA(H3N2)も検出されています。

・アジアの熱帯地域

アジアの熱帯地域の数か国では、インフルエンザウイルスの流行が続いており、特に、スリランカ、ネパール、タイで著しい流行がみられています。これらの国では、インフルエンザB型と、インフルエンザA(H1N1) pdm09が混在していますが、特に最近の数週間ではインフルエンザA(H1N1) pdm09が若干多くなっています。

中国南部では、インフルエンザの活動性は減少し続けています。最近の報告週では、定点医療機関で採取された臨床検体のうち、インフルエンザが陽性となった検体の割合は2.4%であり、過去数週間減少が続き、8月のほぼ50%となったピーク時よりかなり下回っています。同様に、外来受診者のうちILIの患者が占める割合も2.2%であり、前年の同時期の水準を下回っています。香港もインフルエンザの活動性はシーズンオフの水準です。

ベトナムでは、ILIや重症急性呼吸器感染症(SARI)の全体的な報告数は減少しています。検

査されたILI患者の52検体のうち1検体がインフルエンザB型ウイルス陽性となり、3検体がインフルエンザA(H3N2)ウイルス陽性となりました。ベトナムでは6月に伝播の著しいピークがあり、主にインフルエンザA(H3N2)が関係していました。

ラオスとカンボジアでは、インフルエンザウイルスの検出数が少ない状態が続いています。ラオスでは、8月に活動性のピークを迎えたようであり、主にインフルエンザA(H1N1)pdm09が関係していました。カンボジアでは、過去5週間から6週間、少数ですが、インフルエンザA(H3N2)の検出が続いています。最近の報告週では、検査された呼吸器検体のうち、インフルエンザが陽性となったのは20%(50検体中10検体)で、そのうちの7検体がインフルエンザA(H3N2)であり、2検体がインフルエンザB型(系統不明)、1検体がインフルエンザA(H1N1)pdm09でした。

【南半球の温帯地域】

南半球の温帯地域では、すべての国でインフルエンザの活動性が減少し続けており、ほとんどの地域では、現在、シーズンオフの水準です。南半球のインフルエンザシーズンの状況については、今年11月2日に疫学報告書の中で公表される予定です。

・南米の温帯地域

南米の南回帰線以南の地域のインフルエンザの活動性は、チリ、パラグアイ、アルゼンチンで減少し続けています。アルゼンチンでは、インフルエンザA(H1N1)pdm09とインフルエンザB型ウイルスが、ともに減少していると報告されており、ILIとSARIの患者数もこの傾向を反映しています。

チリでは、ILI患者の受診率は、人口10万人あたり9.6で、先週の人口10万人あたり8.4に比べて若干増加しました。しかし、SARI患者の受診率は減少しています。ILI患者の受診率は7月上旬に人口10万人あたり19.4と最大になりました。インフルエンザA(H3N2)が優勢であったインフルエンザシーズンの後、現在の報告週では、亜型が解析されたインフルエンザウイルスの大部分をインフルエンザB型が占めています。今年に入って、インフルエンザが陽性になったSARI患者の検体の大部分は、インフルエンザA(H3N2)ウイルスでした。

パラグアイでは、インフルエンザの活動性は、依然として、低い水準が続いており、SARIによる入院率とILIの受診率もこの傾向を反映しています。現在の報告週では、呼吸器感染症を起こすウイルスが検査された検体(15検体)のうち、47%がインフルエンザB型でした。

・南アフリカの温帯地域

南アフリカでは、インフルエンザウイルスの検出数は減少し続けており、主にインフルエンザB型が検出されています。

・オセアニア、メラネシア、ポリネシア

オーストラリアでは、インフルエンザの活動性が減少し続けており、大部分の地域で、流行閾値を下回っていると報告されています。

国全体では、インフルエンザシーズンの終息に向けて、インフルエンザB型が大部分を占めています。今年、インフルエンザが陽性になった検体のうち、インフルエンザA型が78%(32,662検体中25,476検体)を占め、インフルエンザB型が22%(32,662検体中7,186検体)を占めました。インフルエンザA型(亜型不明)と報告された患者のほとんどは、おそらく、インフルエンザA(H3N2)によるものと考えられています。

今年に入ってから10月15日までに、ノイラミニダーゼ阻害薬であるオセルタミビルに耐性を示したウイルスは1株(1,314株中)でした。



感染症の話

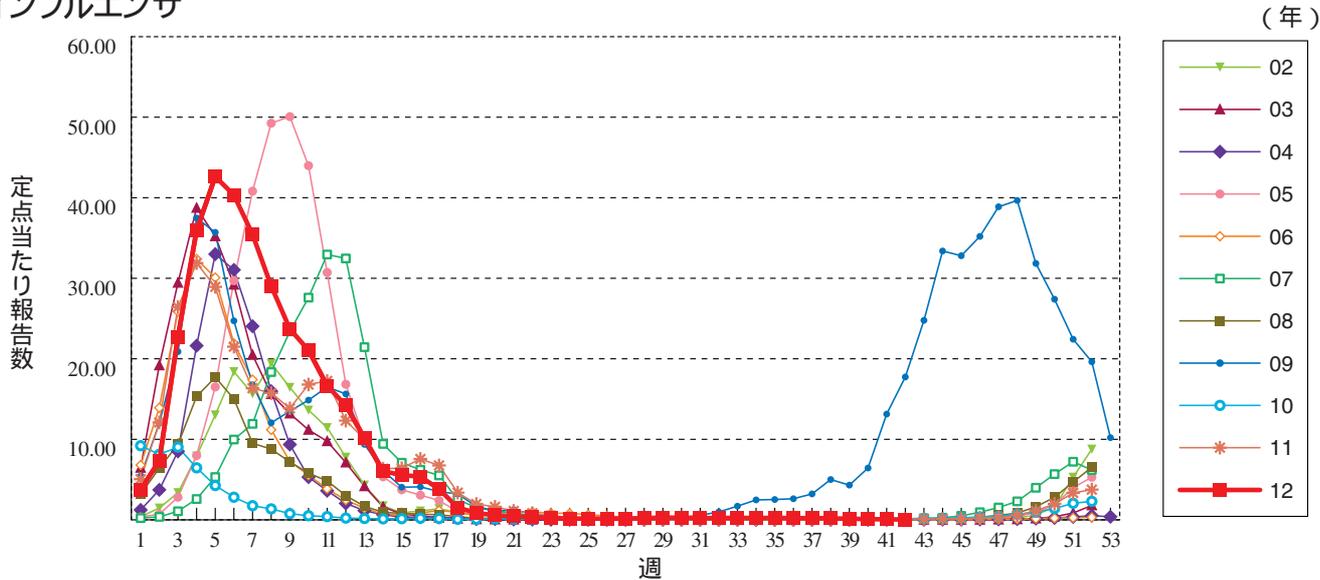
今週はお休みさせていただきます。

「感染症の話」過去の掲載分については
<http://www.nih.go.jp/niid/ja/encyclopedia.html>
でご覧いただけます。

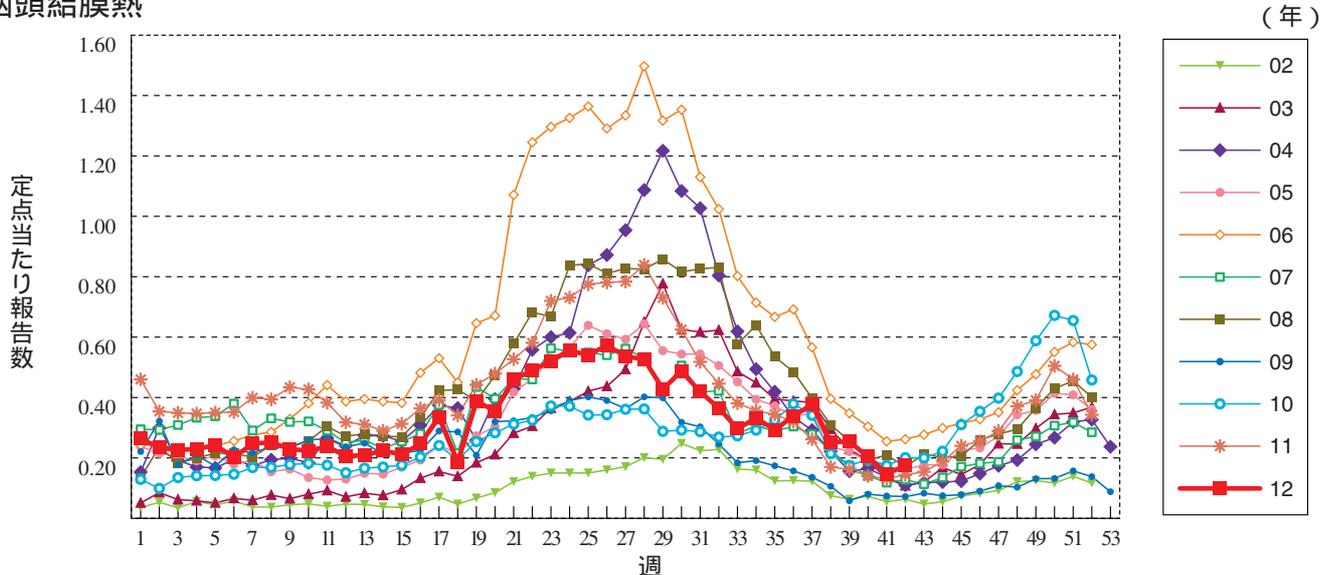


グラフ総覧(42週)

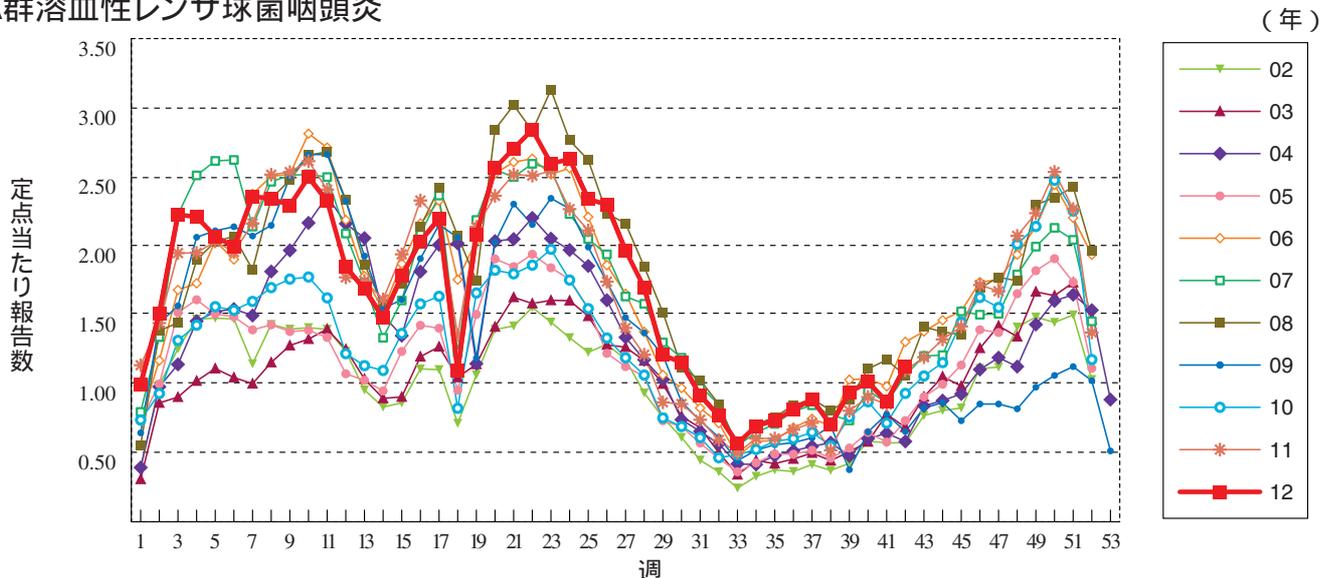
インフルエンザ



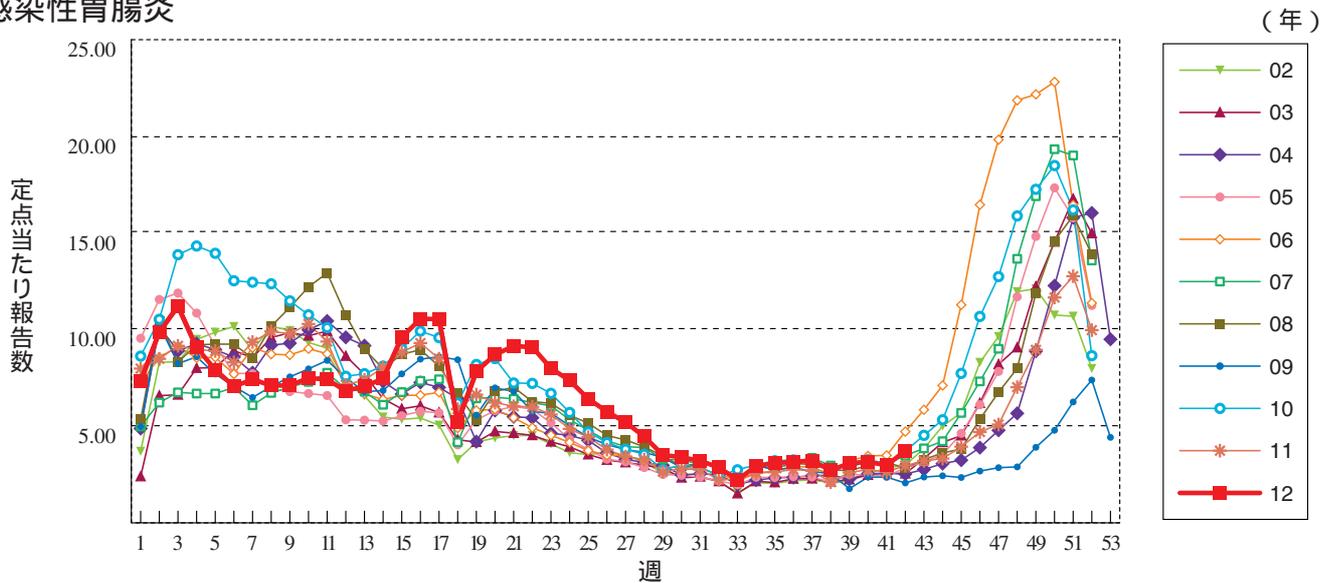
咽頭結膜熱



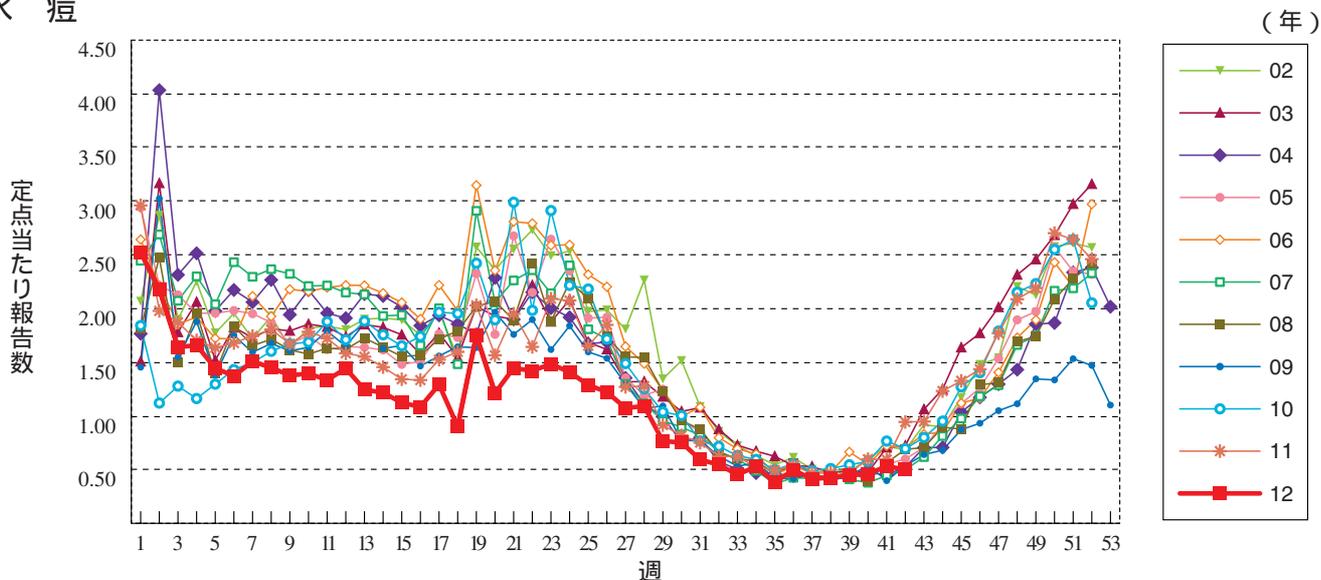
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



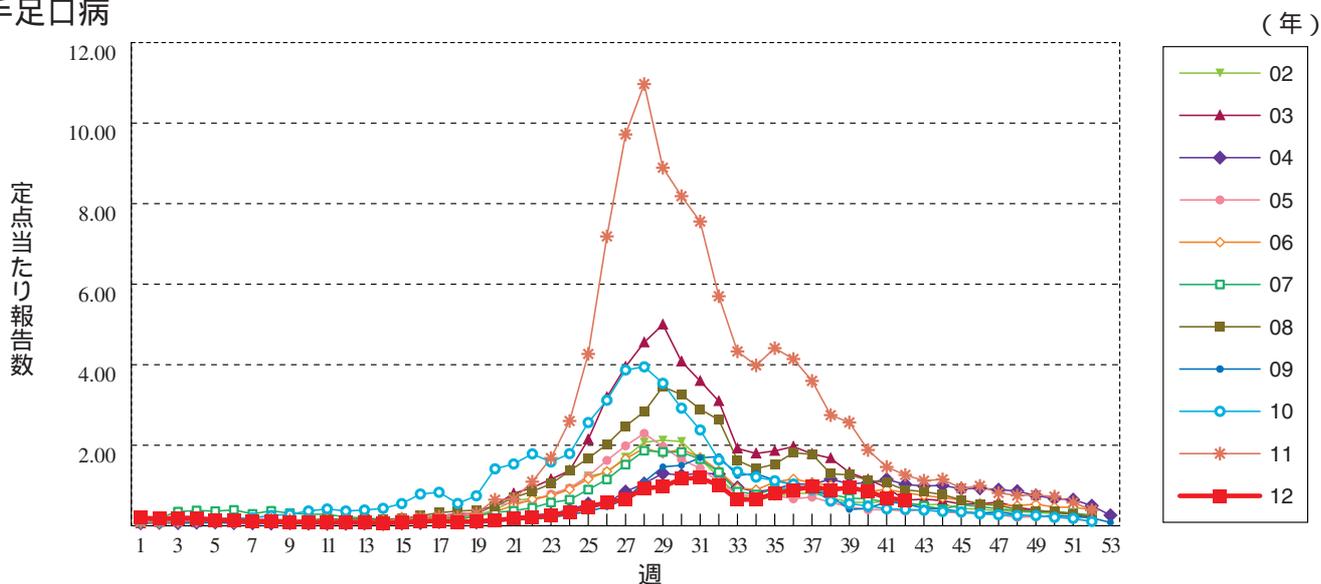
感染性胃腸炎



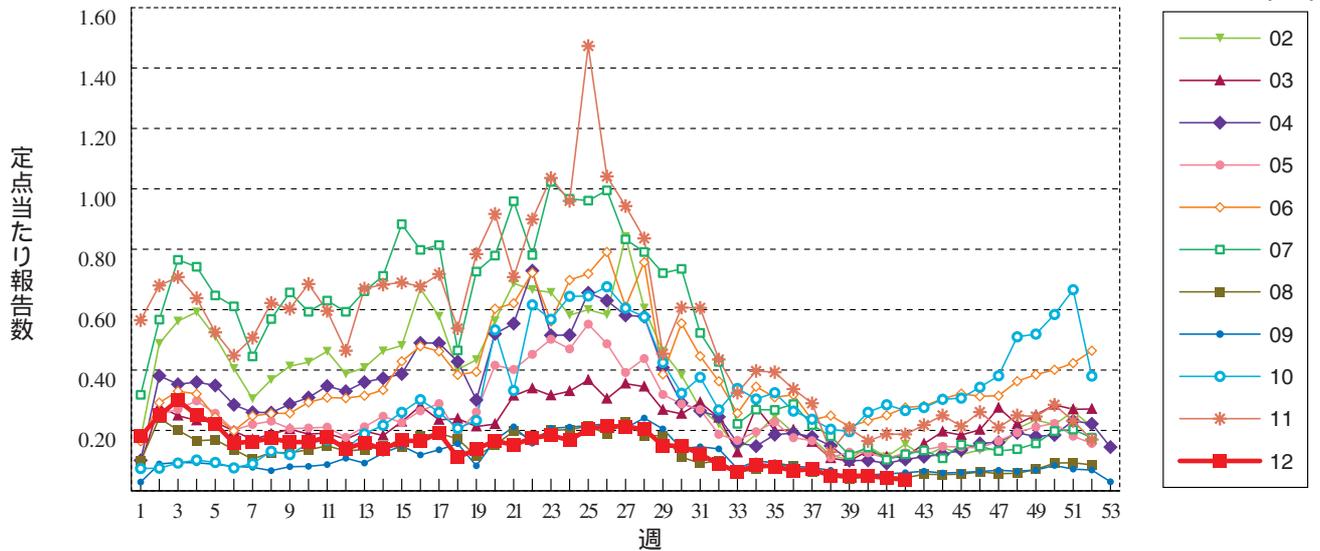
水痘



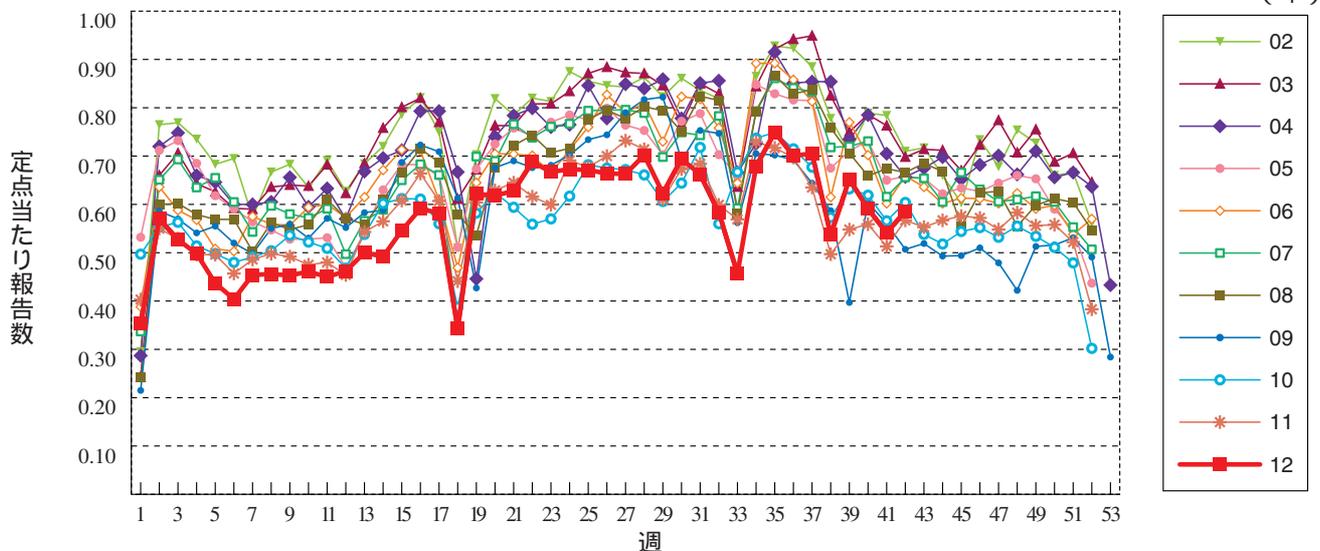
手足口病



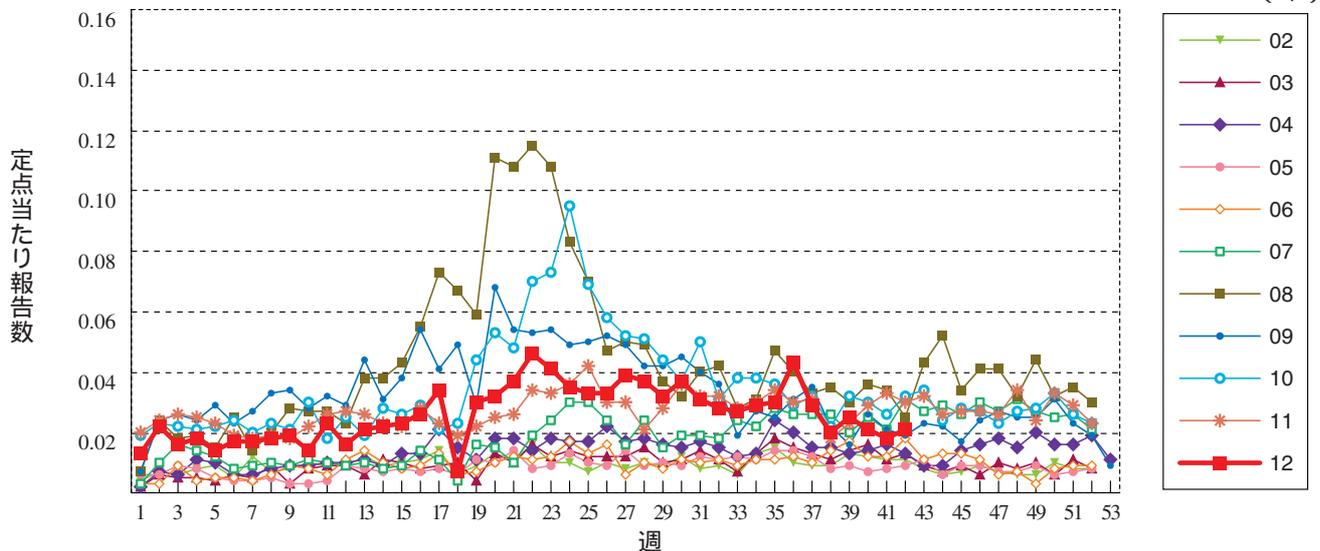
伝染性紅斑



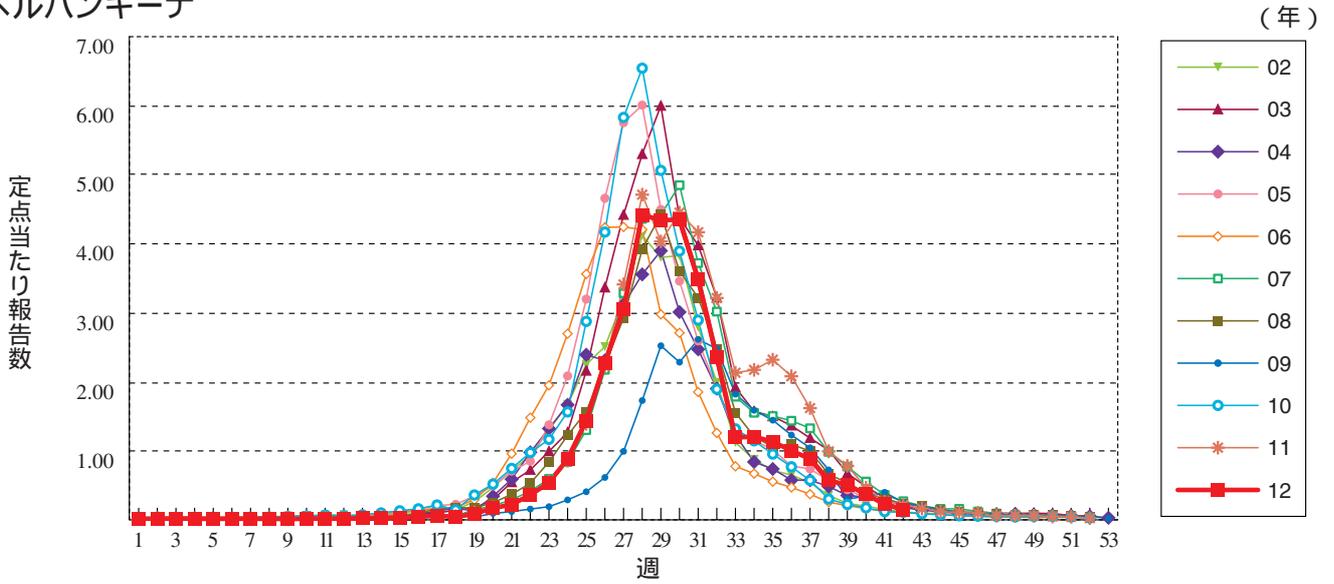
突発性発しん



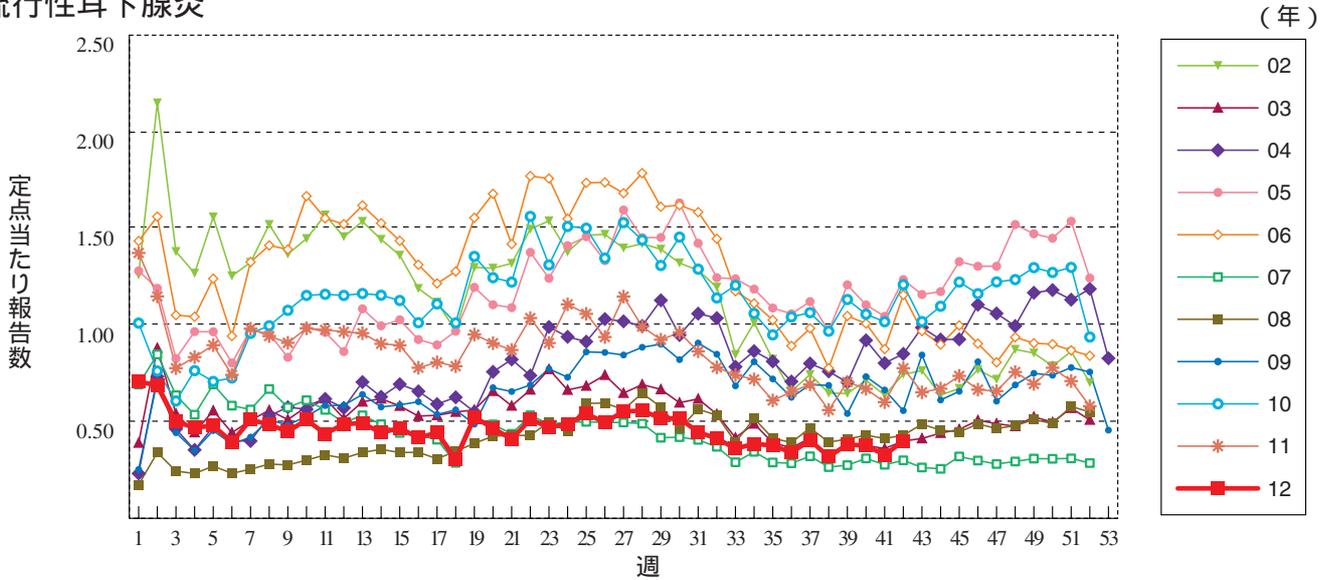
百日咳



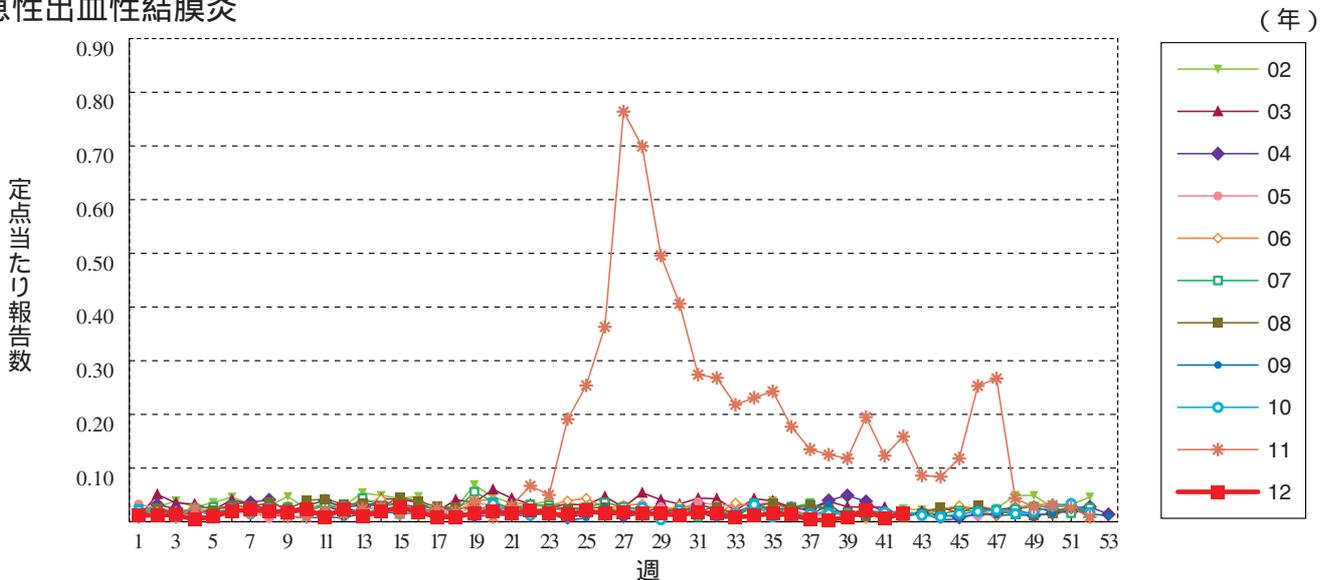
ヘルパンギーナ



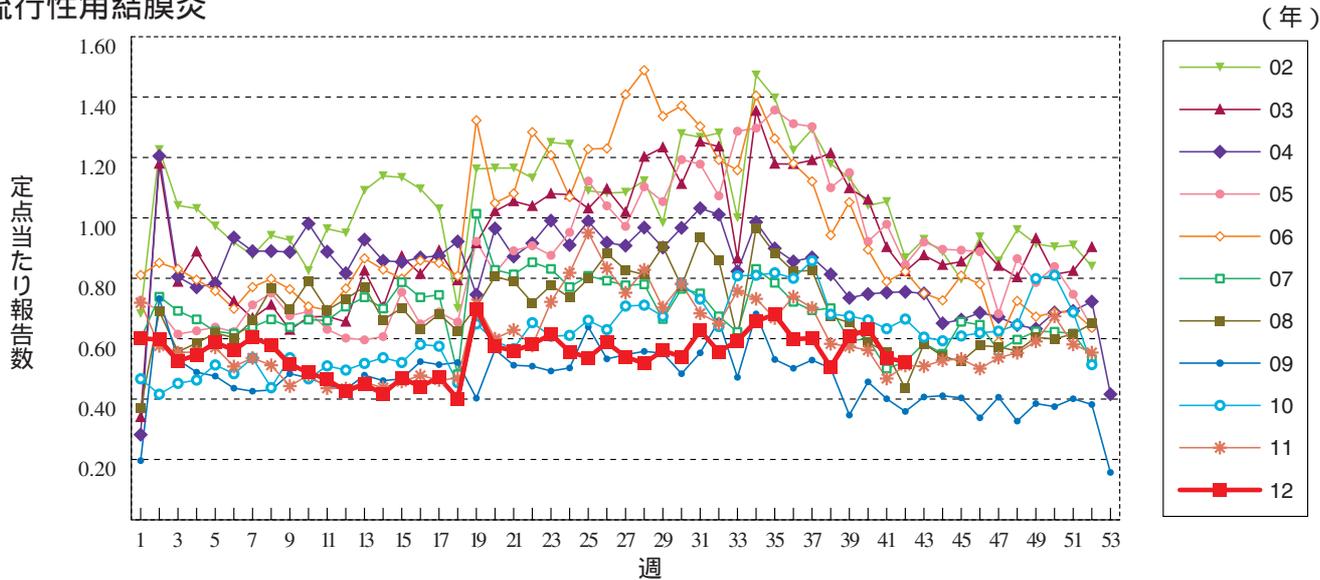
流行性耳下腺炎



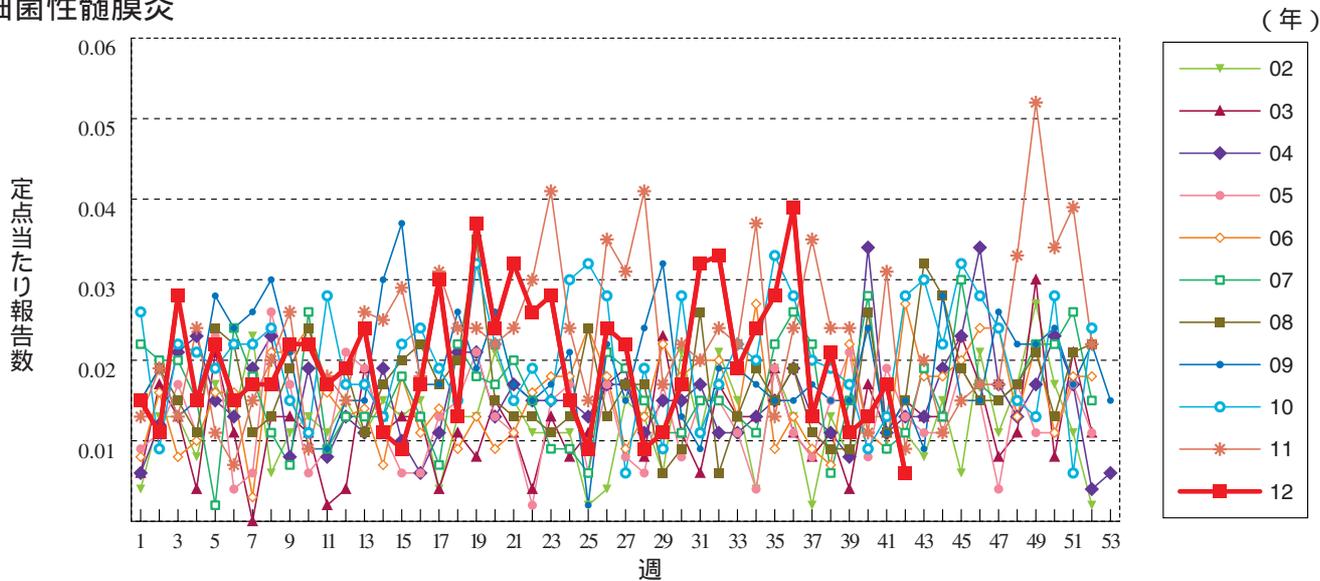
急性出血性結膜炎



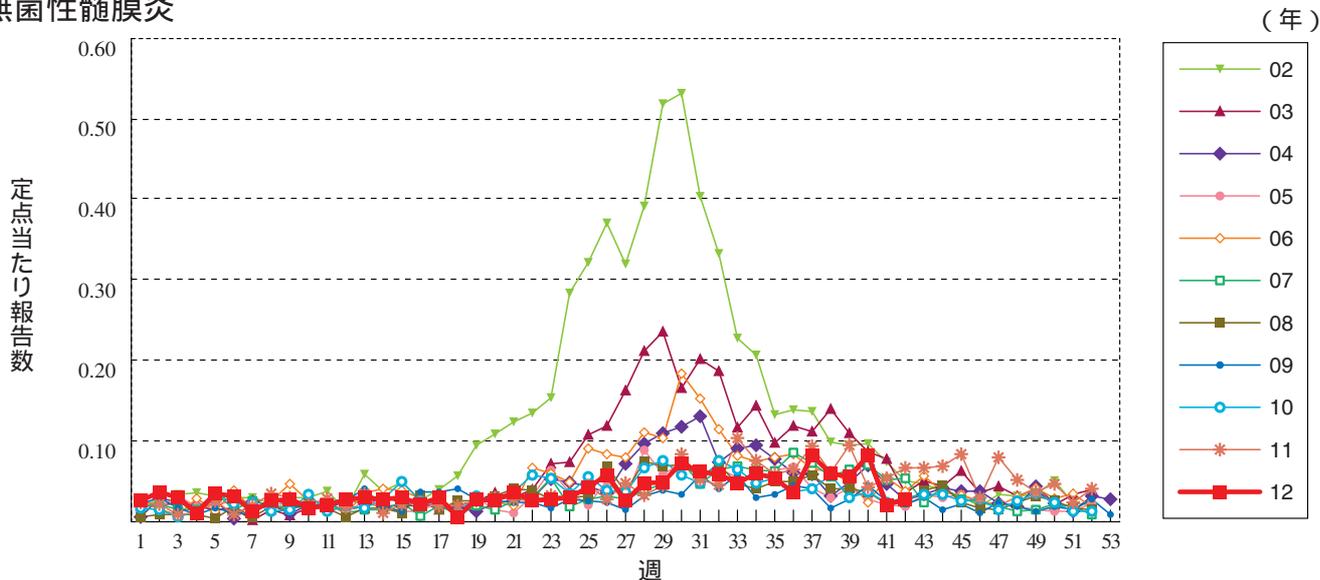
流行性角結膜炎



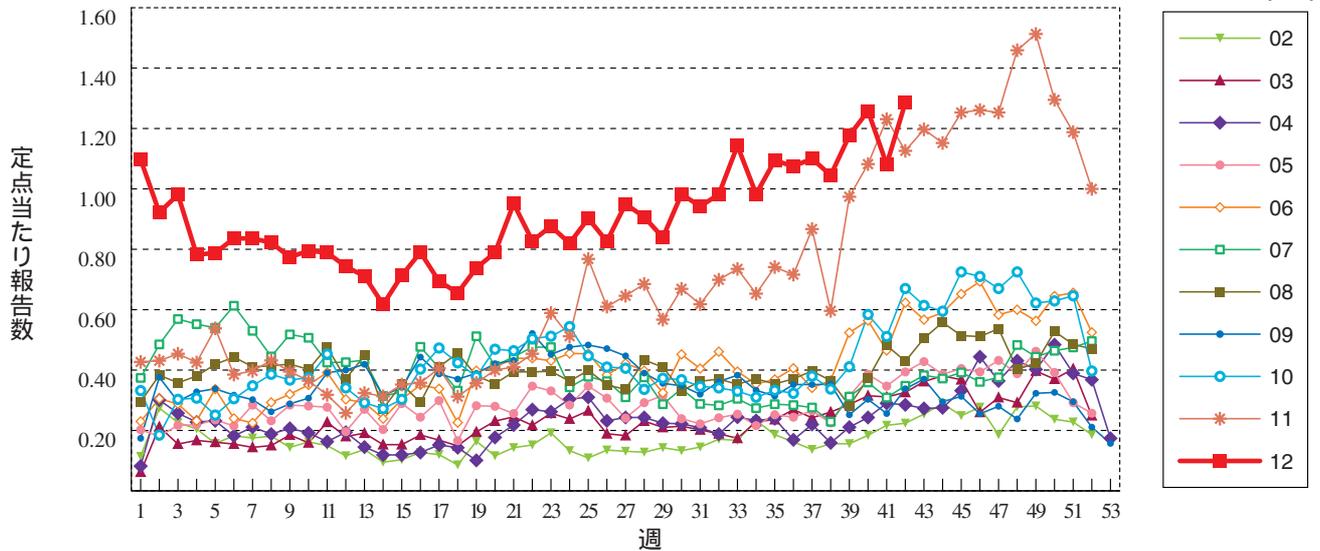
細菌性髄膜炎



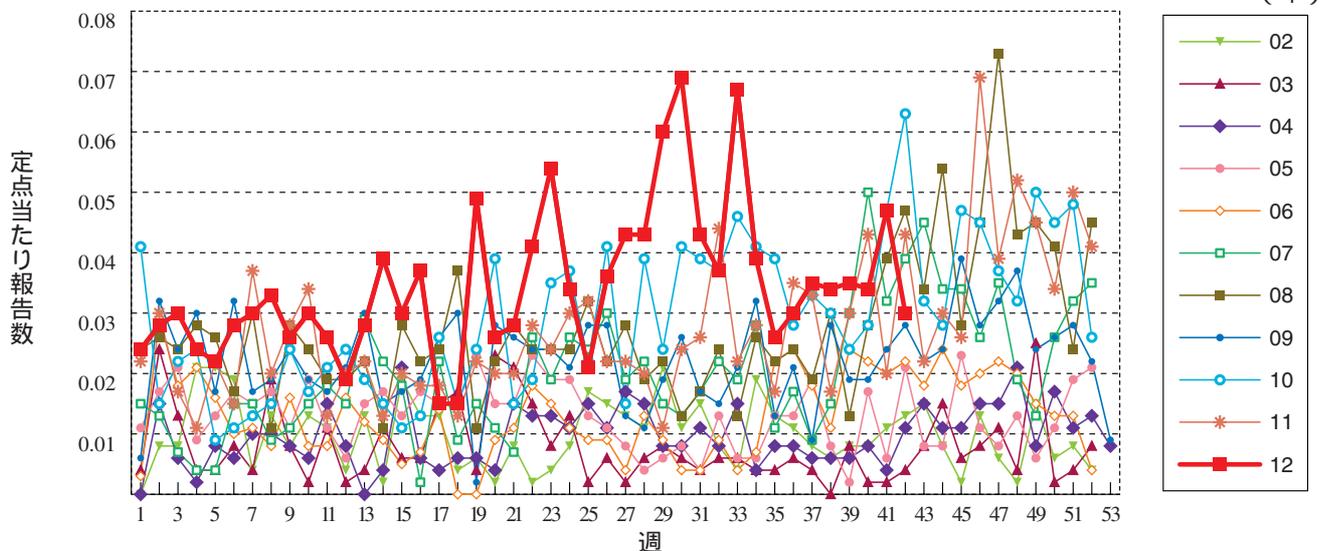
無菌性髄膜炎



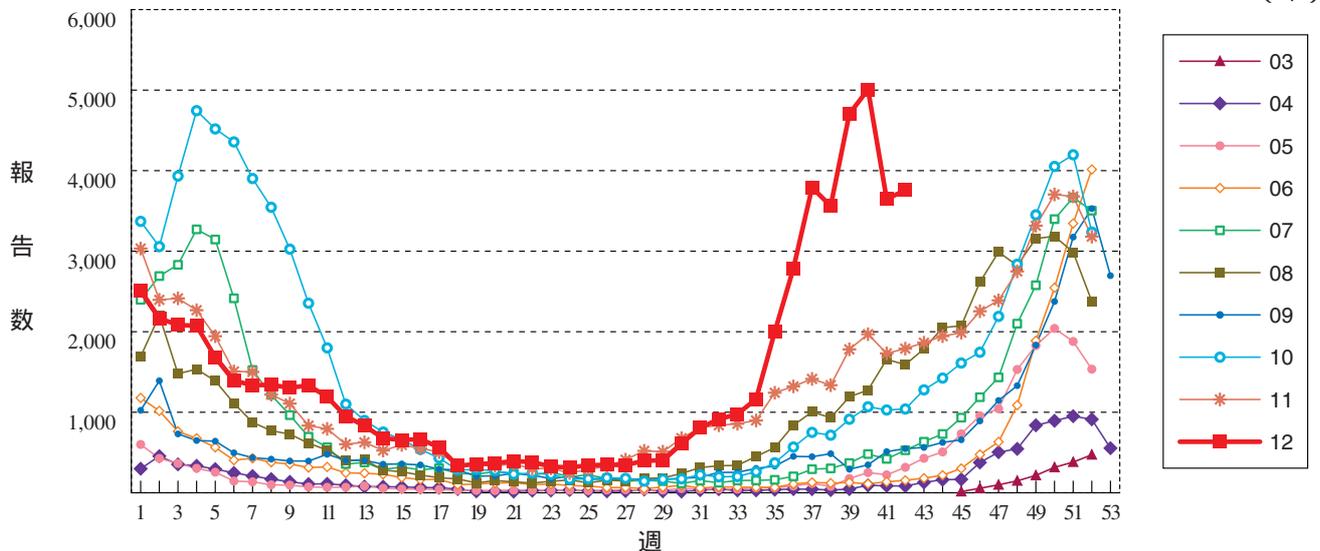
マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎(オウム病を除く)



RSウイルス感染症 定点当たり報告数ではなく、報告数を示しています。





4 2 週 の データ

注) 表中の報告数は10月24日集計分であり、その後の報告は次週以降の累積に反映されず、
新型インフルエンザは掲載していません。

報告数・累積報告数、疾病・都道府県別

2012年42週

	エボラ出血熱		クリミア・コンゴ出血熱		痘 瘡		南米出血熱		ペ ス ト		マールブルグ病		ラッサ熱		急性灰白髄炎		結 核	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	374	23390
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	695
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	330
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	233
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	321
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	167
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	161
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	216
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13	514
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	283
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	214
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	25	1135
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	27	1134
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	66	3648
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	22	1680
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	295
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	179
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	161
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	138
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	114
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	276
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	404
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	516
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	22	1549
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	278
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	213
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	596
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	19	1382
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14	827
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	343
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	285
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	105
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	199
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	365
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12	548
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	325
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	192
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	161
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	191
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	105
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12	963
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	134
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	314
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	355
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	263
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12	212
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	308
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	363

*病原体がSARSコロナウイルスであるものに限る。

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2012年42週

	ジフテリア		重症急性呼吸器症候群*		鳥インフルエンザ (H5N1)		コレラ		細菌性赤痢		腸管出血性大腸菌感染症		腸チフス		パラチフス		E型肝炎	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	-	-	3	7	181	121	3350	1	27	-	17	-	95	
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	1	8	322	-	-	-	-	-	35	
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	62	-	-	-	-	-	1	
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	96	-	-	-	-	-	-	
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	4	6	146	-	-	-	-	-	1	
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	4	26	-	-	-	-	-	-	
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	44	-	-	-	-	-	-	
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	21	-	-	-	-	-	2	
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	4	1	38	-	-	-	-	-	2	
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	31	-	-	-	-	-	-	
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	3	1	51	-	-	-	-	-	1	
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	12	8	106	-	1	-	1	-	-	
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	6	6	107	-	-	-	1	-	2	
東京都	-	-	-	-	-	-	-	3	58	25	229	-	9	-	7	-	14	
神奈川県	-	-	-	-	-	-	2	1	10	7	128	1	7	-	2	-	4	
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	58	-	-	-	-	-	2	
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	29	-	-	-	-	-	-	
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	24	-	-	-	-	-	-	
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	13	-	-	-	-	-	-	
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	18	-	-	-	-	-	-	
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	95	-	-	-	-	-	3	
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	58	-	1	-	-	-	1	
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	3	4	33	-	1	-	-	-	3	
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	2	13	4	144	-	2	-	-	-	1	
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	68	-	-	-	-	-	12	
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	36	-	-	-	-	-	-	
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	46	-	-	-	1	-	-	
大阪府	-	-	-	-	-	-	1	-	28	1	241	-	1	-	4	-	4	
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	5	1	85	-	1	-	-	-	1	
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	16	-	-	-	-	-	-	
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	16	-	-	-	-	-	-	
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	-	-	-	-	-	-	
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	30	-	-	-	-	-	-	
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	154	-	1	-	-	-	-	
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	2	5	64	-	-	-	-	-	-	
山口県	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	51	-	-	-	-	-	-	
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-	
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	22	-	-	-	-	-	-	
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	5	-	-	-	-	-	1	
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	6	-	-	-	-	-	-	
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	2	3	247	-	2	-	-	-	2	
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	75	-	-	-	1	-	-	
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	2	4	14	-	-	-	-	-	1	
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	2	7	67	-	-	-	-	-	2	
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	31	-	-	-	-	-	-	
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	65	-	-	-	-	-	-	
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	104	-	-	-	-	-	-	
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	11	-	1	-	-	-	-	

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2012年42週

	ウエストナイル熱		A型肝炎		エキノコックス症		黄熱		オウム病		オムスク出血熱		回帰熱		キャサナル森林病		Q熱	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	-	4	138	-	11	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-
北海道	-	-	-	2	-	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東京都	-	-	-	29	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
神奈川県	-	-	1	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	4	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	2	11	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	3	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2012年42週

	狂犬病		コクシジ オイデス症		サル痘		腎症候性出血熱		西部ウマ脳炎		ダニ媒介脳炎		炭疽		チクングニア熱		つつが虫病	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	7	5	203
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	19
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	18
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	22
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
栃木県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	10
東京都	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3	-	3
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	23
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	6
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	17
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

*鳥インフルエンザ H5N1 を除く。

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2012年42週

	デング熱		東部ウマ脳炎		鳥インフルエンザ*		ニパウイルス感染症		日本紅斑熱		日本脳炎		ハンタウイルス肺症候群		Bウイルス病		鼻 疽	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	5	183	-	-	-	-	-	-	5	133	-	2	-	-	-	-	-	-
北海道	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
青森県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	11	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東京都	1	45	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
神奈川県	2	18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛知県	1	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三重県	-	3	-	-	-	-	-	-	26	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
兵庫県	-	6	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	19	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	1	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	2	-	-	-	-	-	-	1	19	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	5	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	3	-	-	-	-	-	-	2	6	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	1	-	-	-	-	-	-	2	19	-	1	-	-	-	-	-	-
大分県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	1	2	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	1	-	-	-	-	-	-	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2012年42週

	ブルセラ症		ベネズエラ ウマ脳炎		ヘンドラウイルス 感染症		発しんチフス		ポツリヌス症		マラリア		野 兎 病		ライム病		リッサウイルス 感染症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	-	-	-	-	3	3	65	-	-	-	9	-	-	
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	4	-	-	
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	9	-	-	-	-	-	-	
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	20	-	-	-	-	-	-	
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	-	-	-	-	-	-	
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	1	-	-	
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

*E型肝炎およびA型肝炎を除く。

**ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ペネズエラウマ脳炎およびリフトバレー熱を除く。

報告数・累積報告数、疾病・都道府県別

2012年42週

	リフトバレー熱		類鼻疽		レジオネラ症		レプトスピラ症		ロッキー山 紅斑熱		アメーバ赤痢		ウイルス性肝炎*		急性脳炎**		クリプト スポリジウム症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	23	685	-	17	-	-	6	708	2	177	2	299	-	6
北海道	-	-	-	-	3	27	-	-	-	-	1	22	-	5	-	12	-	-
青森県	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	3	-	1	-	3	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	2	-	-	-	4	-	-
宮城県	-	-	-	-	1	19	-	-	-	-	-	11	-	3	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-	-	3	-	-	-	1	-	-
山形県	-	-	-	-	-	13	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4	-	-
福島県	-	-	-	-	-	10	-	-	-	-	-	6	-	-	-	3	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	15	-	-	-	-	-	11	-	2	-	19	-	-
栃木県	-	-	-	-	2	8	-	-	-	-	-	5	-	2	-	8	-	-
群馬県	-	-	-	-	1	16	-	-	-	-	-	4	-	1	-	8	-	-
埼玉県	-	-	-	-	1	38	-	1	-	-	1	37	-	6	1	15	-	-
千葉県	-	-	-	-	1	25	-	-	-	-	1	37	1	4	-	43	-	-
東京都	-	-	-	-	1	46	-	4	-	-	1	152	1	41	-	25	-	2
神奈川県	-	-	-	-	1	42	-	1	-	-	-	65	-	4	-	12	-	-
新潟県	-	-	-	-	1	14	-	-	-	-	-	8	-	1	1	14	-	-
富山県	-	-	-	-	-	16	-	-	-	-	-	5	-	3	-	3	-	-
石川県	-	-	-	-	-	20	-	-	-	-	-	2	-	1	-	1	-	-
福井県	-	-	-	-	-	11	-	-	-	-	-	1	-	2	-	2	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	10	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-
長野県	-	-	-	-	-	11	-	-	-	-	-	6	-	3	-	1	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	13	-	-	-	-	-	19	-	1	-	1	-	-
静岡県	-	-	-	-	1	20	-	-	-	-	-	21	-	3	-	16	-	-
愛知県	-	-	-	-	1	40	-	-	-	-	-	46	-	10	-	13	-	1
三重県	-	-	-	-	-	12	-	-	-	-	-	10	-	2	-	3	-	3
滋賀県	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-	-	12	-	2	-	3	-	-
京都府	-	-	-	-	1	13	-	-	-	-	1	18	-	6	-	8	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	34	-	1	-	-	-	62	-	21	-	19	-	-
兵庫県	-	-	-	-	3	37	-	-	-	-	-	25	-	11	-	9	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	5	-	1	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	1	3	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	1	21	-	-	-	-	-	10	-	5	-	1	-	-
広島県	-	-	-	-	-	16	-	-	-	-	-	16	-	8	-	14	-	-
山口県	-	-	-	-	-	11	-	-	-	-	-	4	-	-	-	1	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	1	4	-	-	-	-	-	11	-	1	-	3	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	7	-	1	-	-	-	2	-	3	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	2	28	-	1	-	-	1	30	-	12	-	4	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-	-	4	-	2	-	2	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	12	-	-	-	-	-	5	-	-	-	1	-	-
大分県	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-	-	4	-	1	-	7	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	5	-	1	-	-	-	3	-	2	-	8	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	5	-	2	-	-	-	5	-	2	-	6	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	3	-	4	-	-	-	5	-	3	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2012年42週

	クローンツェルト ・ヤコブ病		劇症型溶血性 レンサ球菌感染症		後天性免疫不全 症候群		ジアルジア症		髄膜炎菌性 髄膜炎		先天性風しん 症候群		梅 毒		破 傷 風		バンコマイシン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	2	147	-	204	19	1124	3	56	-	10	1	1	8	691	1	89	-	-
北海道	-	7	-	10	1	22	-	1	-	-	-	-	19	1	9	-	-	
青森県	-	-	-	2	-	3	-	1	-	-	-	-	4	-	-	-	-	
岩手県	-	2	-	4	-	3	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	
宮城県	-	4	-	3	-	10	-	1	-	-	-	-	18	-	2	-	-	
秋田県	-	-	-	3	-	2	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	
山形県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	2	-	2	-	-	
福島県	-	1	-	3	-	6	-	-	-	-	-	-	1	-	3	-	-	
茨城県	-	3	-	3	-	21	-	2	-	-	-	-	1	20	-	3	-	
栃木県	-	7	-	5	2	17	-	-	-	-	-	-	11	-	2	-	-	
群馬県	-	1	-	4	-	11	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-	
埼玉県	-	5	-	5	-	34	1	1	-	-	-	-	30	-	4	-	-	
千葉県	-	5	-	12	2	40	-	-	-	-	-	-	21	-	4	-	-	
東京都	-	13	-	18	6	368	-	11	-	-	-	-	2	228	-	3	-	
神奈川県	-	7	-	9	1	59	2	4	-	2	-	-	2	39	-	5	-	
新潟県	-	5	-	3	-	7	-	-	-	-	-	-	6	-	1	-	-	
富山県	1	2	-	8	-	4	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-	
石川県	-	4	-	3	-	7	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	
福井県	-	2	-	3	-	8	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
山梨県	-	3	-	2	-	3	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	
長野県	-	1	-	4	-	14	-	2	-	-	-	-	5	-	3	-	-	
岐阜県	-	1	-	-	-	11	-	-	-	-	-	-	1	-	4	-	-	
静岡県	-	4	-	5	-	22	-	-	-	-	-	-	13	-	2	-	-	
愛知県	-	8	-	10	-	99	-	1	-	1	-	-	1	30	-	4	-	
三重県	-	1	-	4	-	5	-	1	-	1	-	-	3	-	-	-	-	
滋賀県	-	1	-	3	-	7	-	1	-	-	-	-	2	-	-	-	-	
京都府	-	7	-	8	-	8	-	1	-	1	-	-	8	-	2	-	-	
大阪府	-	6	-	4	4	139	-	9	-	-	-	-	84	-	1	-	-	
兵庫県	-	6	-	4	1	36	-	6	-	1	1	-	15	-	1	-	-	
奈良県	-	2	-	1	-	9	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	
和歌山県	-	1	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-	4	-	2	-	-	
鳥取県	-	2	-	5	-	1	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	
島根県	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2	-	-	
岡山県	-	1	-	-	-	15	-	2	-	-	-	-	6	-	1	-	-	
広島県	-	1	-	2	-	17	-	2	-	-	-	-	7	-	3	-	-	
山口県	1	2	-	6	-	2	-	-	-	-	-	-	1	4	-	-	-	
徳島県	-	4	-	2	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	
香川県	-	2	-	1	-	7	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
愛媛県	-	2	-	6	-	7	-	2	-	-	-	-	3	-	3	-	-	
高知県	-	-	-	3	-	3	-	1	-	-	-	-	9	-	1	-	-	
福岡県	-	6	-	15	2	41	-	2	-	2	-	-	25	-	4	-	-	
佐賀県	-	3	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	
長崎県	-	-	-	1	-	4	-	1	-	-	-	-	1	-	1	-	-	
熊本県	-	3	-	11	-	6	-	-	-	1	-	-	11	-	4	-	-	
大分県	-	2	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	
宮崎県	-	2	-	2	-	2	-	-	-	-	-	-	1	3	-	3	-	
鹿児島県	-	2	-	3	-	5	-	1	-	-	-	-	5	-	3	-	-	
沖縄県	-	3	-	2	-	18	-	2	-	1	-	-	9	-	1	-	-	

報告数・累積報告数，疾病・都道府県別 2012年42週

	バンコマイシン耐性腸球菌感染症		風しん		麻しん	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	1	76	35	1889	3	274
北海道	-	-	-	9	-	1
青森県	-	1	-	2	-	-
岩手県	-	-	-	1	-	2
宮城県	-	-	2	8	-	-
秋田県	-	-	-	3	-	1
山形県	-	-	-	5	-	-
福島県	-	1	-	4	-	7
茨城県	-	1	-	15	-	-
栃木県	-	-	-	4	-	10
群馬県	-	2	-	13	-	-
埼玉県	-	7	-	70	-	33
千葉県	-	5	1	78	-	19
東京都	-	8	11	477	1	73
神奈川県	1	6	8	178	-	26
新潟県	-	1	-	7	-	2
富山県	-	-	1	2	-	1
石川県	-	-	-	-	-	-
福井県	-	1	-	8	-	-
山梨県	-	1	-	10	-	3
長野県	-	-	1	12	-	-
岐阜県	-	2	1	8	-	6
静岡県	-	2	-	18	-	2
愛知県	-	3	-	80	1	38
三重県	-	1	1	56	-	1
滋賀県	-	-	-	12	-	1
京都府	-	3	-	34	-	2
大阪府	-	11	4	358	1	6
兵庫県	-	1	4	267	-	16
奈良県	-	-	-	18	-	-
和歌山県	-	1	1	10	-	-
鳥取県	-	-	-	1	-	-
島根県	-	-	-	3	-	-
岡山県	-	2	-	6	-	6
広島県	-	2	-	9	-	6
山口県	-	-	-	5	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	3	-	-
愛媛県	-	3	-	2	-	2
高知県	-	-	-	2	-	-
福岡県	-	4	-	35	-	-
佐賀県	-	-	-	1	-	-
長崎県	-	1	-	2	-	1
熊本県	-	5	-	3	-	-
大分県	-	-	-	2	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	8
鹿児島県	-	-	-	4	-	1
沖縄県	-	1	-	44	-	-

*鳥インフルエンザを除く。

報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

2012年42週

	インフルエンザ*		咽頭結膜熱		A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎		感染性胃腸炎		水痘		手足口病		伝染性紅斑		突発性発しん		百日咳	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	253	0.05	551	0.18	3550	1.13	11755	3.74	1577	0.50	1998	0.64	117	0.04	1844	0.59	66	0.02
北海道	-	-	29	0.20	294	2.06	169	1.18	61	0.43	200	1.40	4	0.03	53	0.37	3	0.02
青森県	-	-	-	-	54	1.32	40	0.98	18	0.44	26	0.63	-	-	13	0.32	-	-
岩手県	-	-	3	0.08	24	0.60	86	2.15	38	0.95	133	3.33	8	0.20	14	0.35	1	0.03
宮城県	-	-	5	0.09	98	1.69	242	4.17	58	1.00	123	2.12	1	0.02	37	0.64	-	-
秋田県	1	0.02	6	0.17	12	0.34	57	1.63	2	0.06	125	3.57	-	-	13	0.37	-	-
山形県	-	-	8	0.27	64	2.13	71	2.37	38	1.27	92	3.07	2	0.07	20	0.67	-	-
福島県	3	0.04	1	0.02	56	1.17	84	1.75	30	0.63	109	2.27	6	0.13	30	0.63	1	0.02
茨城県	4	0.03	2	0.03	98	1.31	255	3.40	25	0.33	73	0.97	3	0.04	21	0.28	1	0.01
栃木県	-	-	-	-	36	0.75	64	1.33	20	0.42	65	1.35	3	0.06	32	0.67	-	-
群馬県	-	-	8	0.13	29	0.48	190	3.17	22	0.37	19	0.32	3	0.05	32	0.53	2	0.03
埼玉県	12	0.05	25	0.16	219	1.39	576	3.67	55	0.35	152	0.97	5	0.03	103	0.66	3	0.02
千葉県	9	0.04	10	0.07	208	1.55	386	2.88	48	0.36	84	0.63	3	0.02	73	0.54	5	0.04
東京都	19	0.05	85	0.33	338	1.31	1073	4.14	103	0.40	103	0.40	13	0.05	172	0.66	3	0.01
神奈川県	12	0.04	39	0.20	160	0.80	571	2.86	68	0.34	131	0.66	7	0.04	130	0.65	2	0.01
新潟県	-	-	13	0.22	103	1.72	60	1.00	41	0.68	25	0.42	6	0.10	40	0.67	3	0.05
富山県	4	0.08	4	0.14	52	1.79	89	3.07	21	0.72	3	0.10	-	-	10	0.34	-	-
石川県	3	0.06	5	0.17	44	1.52	127	4.38	9	0.31	36	1.24	2	0.07	12	0.41	-	-
福井県	2	0.06	3	0.14	21	0.95	68	3.09	6	0.27	8	0.36	1	0.05	5	0.23	4	0.18
山梨県	1	0.03	1	0.04	44	1.83	61	2.54	12	0.50	9	0.38	-	-	11	0.46	-	-
長野県	1	0.01	-	-	102	1.85	169	3.07	36	0.65	8	0.15	2	0.04	23	0.42	1	0.02
岐阜県	15	0.17	13	0.25	31	0.58	223	4.21	13	0.25	1	0.02	11	0.21	21	0.40	3	0.06
静岡県	4	0.03	10	0.11	73	0.82	278	3.12	27	0.30	17	0.19	-	-	59	0.66	2	0.02
愛知県	1	0.01	22	0.12	143	0.79	560	3.09	47	0.26	13	0.07	2	0.01	111	0.61	4	0.02
三重県	6	0.08	12	0.27	27	0.60	177	3.93	13	0.29	7	0.16	-	-	32	0.71	-	-
滋賀県	10	0.19	1	0.03	50	1.56	101	3.16	8	0.25	7	0.22	-	-	24	0.75	2	0.06
京都府	-	-	5	0.07	70	0.97	231	3.21	27	0.38	12	0.17	1	0.01	32	0.44	1	0.01
大阪府	4	0.01	34	0.17	243	1.22	1072	5.36	115	0.58	34	0.17	4	0.02	116	0.58	4	0.02
兵庫県	3	0.02	11	0.09	108	0.84	936	7.26	74	0.57	8	0.06	3	0.02	78	0.60	-	-
奈良県	-	-	7	0.20	13	0.37	85	2.43	8	0.23	5	0.14	1	0.03	12	0.34	-	-
和歌山県	-	-	-	-	18	0.58	73	2.35	22	0.71	5	0.16	-	-	17	0.55	-	-
鳥取県	-	-	1	0.05	22	1.16	57	3.00	6	0.32	-	-	-	-	12	0.63	-	-
島根県	-	-	4	0.17	13	0.57	137	5.96	10	0.43	-	-	1	0.04	20	0.87	-	-
岡山県	-	-	4	0.07	16	0.30	182	3.37	23	0.43	5	0.09	3	0.06	21	0.39	-	-
広島県	-	-	6	0.08	50	0.69	231	3.21	58	0.81	3	0.04	1	0.01	29	0.40	7	0.10
山口県	1	0.01	3	0.06	142	2.96	177	3.69	36	0.75	2	0.04	2	0.04	51	1.06	1	0.02
徳島県	-	-	8	0.35	24	1.04	117	5.09	23	1.00	-	-	4	0.17	20	0.87	-	-
香川県	-	-	6	0.20	9	0.30	130	4.33	14	0.47	25	0.83	1	0.03	18	0.60	-	-
愛媛県	-	-	-	-	43	1.16	162	4.38	26	0.70	18	0.49	4	0.11	33	0.89	1	0.03
高知県	-	-	1	0.03	22	0.73	70	2.33	25	0.83	1	0.03	3	0.10	10	0.33	1	0.03
福岡県	4	0.02	50	0.42	132	1.10	892	7.43	84	0.70	27	0.23	-	-	99	0.83	4	0.03
佐賀県	3	0.08	25	1.09	28	1.22	63	2.74	15	0.65	1	0.04	-	-	13	0.57	-	-
長崎県	1	0.01	7	0.16	38	0.86	160	3.64	43	0.98	2	0.05	4	0.09	24	0.55	1	0.02
熊本県	10	0.13	18	0.38	35	0.73	292	6.08	21	0.44	12	0.25	1	0.02	38	0.79	-	-
大分県	-	-	4	0.11	47	1.31	238	6.61	34	0.94	25	0.69	-	-	26	0.72	2	0.06
宮崎県	1	0.02	23	0.64	50	1.39	195	5.42	33	0.92	120	3.33	1	0.03	25	0.69	-	-
鹿児島県	14	0.15	28	0.51	31	0.56	241	4.38	45	0.82	115	2.09	1	0.02	35	0.64	-	-
沖縄県	105	1.81	1	0.03	16	0.47	237	6.97	16	0.47	9	0.26	-	-	24	0.71	4	0.12

*髄膜炎菌性髄膜炎は除く。

報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

2012年42週

	ヘルパンギーナ		流行性耳下腺炎		急性出血性結膜炎		流行性角結膜炎		細菌性髄膜炎*		無菌性髄膜炎		マイコプラズマ肺炎		クラミジア肺炎		RSウイルス感染症	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	458	0.15	1259	0.40	11	0.02	356	0.52	3	0.01	13	0.03	600	1.28	14	0.03		3757
北海道	20	0.14	4	0.03	-	-	14	0.48	-	-	-	-	32	1.39	-	-		99
青森県	5	0.12	9	0.22	-	-	6	0.55	-	-	-	-	27	4.50	-	-		60
岩手県	9	0.23	64	1.60	-	-	14	1.00	-	-	-	-	61	3.21	-	-		64
宮城県	15	0.26	61	1.05	-	-	3	0.25	-	-	-	-	29	2.42	-	-		28
秋田県	17	0.49	7	0.20	-	-	4	0.57	-	-	-	-	16	2.00	-	-		86
山形県	13	0.43	44	1.47	-	-	1	0.13	-	-	-	-	8	0.80	-	-		85
福島県	16	0.33	10	0.21	-	-	3	0.25	-	-	-	-	17	2.43	2	0.29		82
茨城県	7	0.09	12	0.16	-	-	16	0.94	-	-	1	0.08	11	0.85	-	-		74
栃木県	-	-	21	0.44	-	-	9	0.75	-	-	-	-	25	3.57	-	-		66
群馬県	6	0.10	24	0.40	-	-	7	0.50	-	-	1	0.13	41	5.13	-	-		104
埼玉県	12	0.08	54	0.34	2	0.05	20	0.49	-	-	-	-	21	2.33	1	0.11		157
千葉県	21	0.16	56	0.42	-	-	14	0.41	-	-	-	-	17	1.89	1	0.11		99
東京都	46	0.18	51	0.20	-	-	17	0.45	-	-	4	0.17	31	1.29	1	0.04		297
神奈川県	31	0.16	74	0.37	-	-	38	0.86	-	-	1	0.11	15	1.67	-	-		103
新潟県	23	0.38	19	0.32	-	-	4	0.40	-	-	1	0.08	4	0.31	7	0.54		169
富山県	5	0.17	1	0.03	-	-	1	0.14	-	-	-	-	13	2.60	-	-		54
石川県	1	0.03	8	0.28	-	-	-	-	-	-	-	-	7	1.40	-	-		59
福井県	4	0.18	17	0.77	-	-	1	0.33	-	-	-	-	1	0.17	-	-		68
山梨県	1	0.04	5	0.21	-	-	5	0.56	-	-	-	-	6	0.60	-	-		6
長野県	4	0.07	6	0.11	-	-	3	0.27	-	-	-	-	22	2.00	-	-		9
岐阜県	1	0.02	57	1.08	-	-	2	0.18	-	-	-	-	7	1.40	-	-		39
静岡県	5	0.06	24	0.27	-	-	26	1.18	-	-	1	0.10	16	1.60	-	-		111
愛知県	8	0.04	75	0.41	5	0.15	9	0.26	-	-	-	-	12	0.86	-	-		142
三重県	3	0.07	33	0.73	-	-	2	0.17	-	-	-	-	9	1.00	-	-		44
滋賀県	5	0.16	6	0.19	-	-	-	-	-	-	-	-	5	0.71	-	-		51
京都府	5	0.07	14	0.19	-	-	13	0.81	-	-	-	-	1	0.17	-	-		75
大阪府	19	0.10	66	0.33	-	-	14	0.27	1	0.06	1	0.06	29	1.71	-	-		241
兵庫県	11	0.09	25	0.19	2	0.06	9	0.26	-	-	-	-	12	1.09	-	-		143
奈良県	-	-	3	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	3	0.50	-	-		36
和歌山県	8	0.26	5	0.16	-	-	-	-	-	-	-	-	13	1.18	-	-		21
鳥取県	3	0.16	1	0.05	-	-	6	2.00	-	-	-	-	3	0.60	-	-		37
島根県	7	0.30	2	0.09	-	-	-	-	-	-	2	0.25	8	1.00	-	-		38
岡山県	10	0.19	15	0.28	-	-	8	0.67	-	-	-	-	4	0.80	1	0.20		68
広島県	5	0.07	21	0.29	1	0.05	7	0.37	-	-	-	-	6	0.29	-	-		96
山口県	10	0.21	5	0.10	-	-	2	0.22	-	-	1	0.11	13	1.44	-	-		101
徳島県	1	0.04	4	0.17	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.20	-	-		22
香川県	21	0.70	7	0.23	-	-	1	0.33	1	0.20	-	-	-	-	-	-		54
愛媛県	17	0.46	17	0.46	-	-	6	0.75	-	-	-	-	10	1.67	-	-		28
高知県	3	0.10	4	0.13	-	-	1	0.33	-	-	-	-	5	0.63	1	0.13		26
福岡県	5	0.04	98	0.82	1	0.04	14	0.54	1	0.07	-	-	2	0.13	-	-		231
佐賀県	1	0.04	13	0.57	-	-	1	0.25	-	-	-	-	4	0.67	-	-		50
長崎県	2	0.05	27	0.61	-	-	1	0.13	-	-	-	-	7	0.58	-	-		74
熊本県	11	0.23	27	0.56	-	-	14	1.56	-	-	-	-	5	0.33	-	-		79
大分県	14	0.39	91	2.53	-	-	3	0.60	-	-	-	-	8	0.73	-	-		51
宮崎県	6	0.17	22	0.61	-	-	9	1.50	-	-	-	-	1	0.14	-	-		93
鹿児島県	14	0.25	38	0.69	-	-	6	0.86	-	-	-	-	5	0.42	-	-		24
沖縄県	7	0.21	12	0.35	-	-	22	2.20	-	-	-	-	7	1.00	-	-		13

獣医師が届出を行う感染症と対象動物

注 報告数は感染実験等の学術的研究による発生を除く。

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2012年42週

	エボラ出血熱		マールブルグ病		ペスト		重症急性呼吸器症候群(SARS)						結核		鳥インフルエンザ(H5N1)		細菌性赤痢	
	サル		サル		プレーリードッグ	イタチアナグマ		タヌキ		ハクビシン		サル		鳥類		サル		
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別 2012年42週

	ウエストナイル熱		エキノコックス症	
	鳥類		犬	
	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-
北海道	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-
東京都	-	-	-	-
神奈川県	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-

感染症週報 第14巻 第42号 2012年11月2日発行
 発行：国立感染症研究所
 厚生労働省健康局結核感染症課
 厚生労働省大臣官房統計情報部
 事務局：国立感染症研究所感染症情報センター
 〒162-8640東京都新宿区戸山1-23-1
 T E L : 03-5285-1111
 F A X : 03-5285-1129
 U R L : <http://www.nih.go.jp/niid/ja/from-idsc.html>
 < 国立感染症研究所 感染症情報センター >
<http://www.mhlw.go.jp/>
 < 厚生労働省 >
<http://www.forth.go.jp/>
 < 旅行者のための海外感染症情報(厚生労働省検疫所) >

本週報は、感染症新法に基づくものであり、全国の医療従事者、定点医療機関、保健所、保健所設置市、特別区、都道府県、地方衛生研究所、検疫所の皆様のご協力を得て、国立感染症研究所感染症情報センターにおいて編集したものです。

また、本週報は速報性を重視しておりますので、今後調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがありますが、その場合には週報上にて訂正させていただきます。

「感染症の話」及び「読者のコーナー」の回答欄の内容に関する責は、それぞれの執筆者及び回答者に属しますが、内容に関するご質問、ご意見については事務局でお受けいたします。

なお、週報の内容について、学術的研究、あるいは公衆衛生活動にかかわる業務以外の目的においては、無断転載を禁じます。